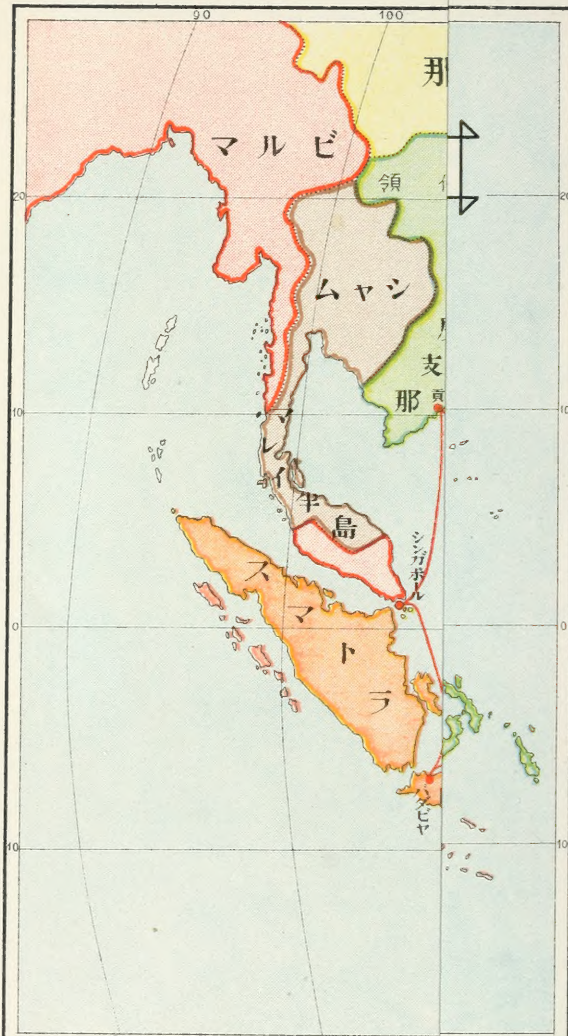
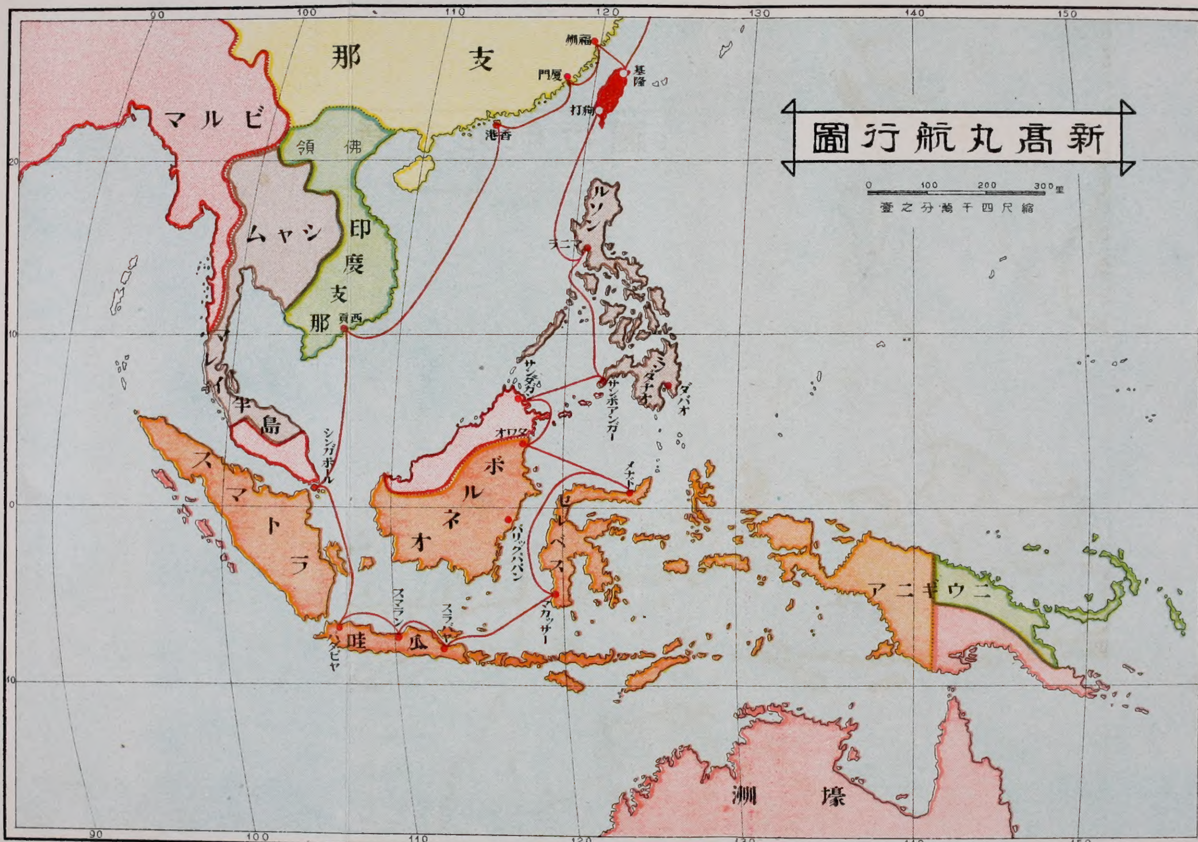


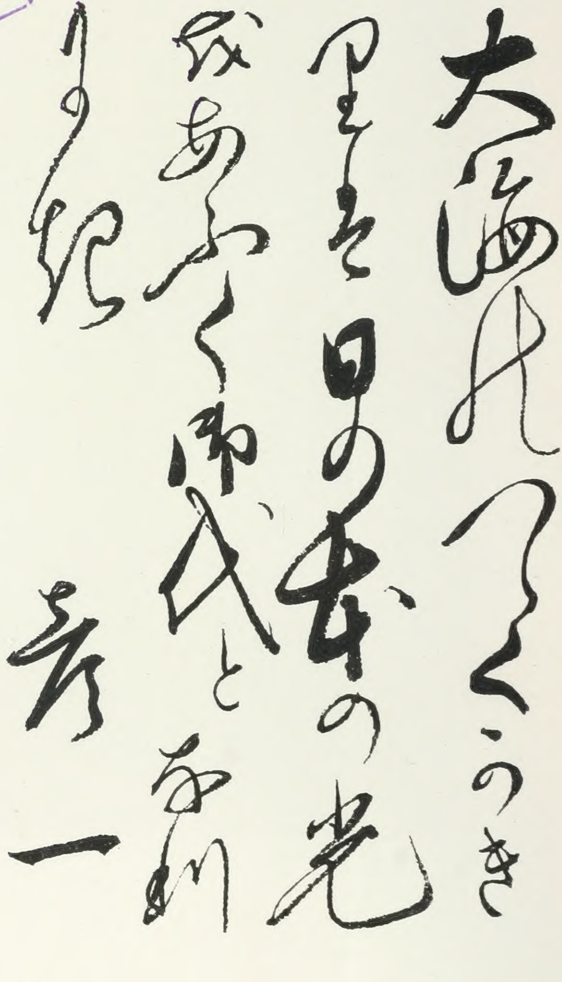
野村徳七筆

護謨と椰子



90
100
那
ビルマ
領
20
シャム
支
那
10
マレイ半島
シンガポール
スマトラ
0
ダビヤ
10
90
100


新高丸航行圖
0 100 200 300 里
縮尺四千萬分之壹
支那
ビルマ
佛領
印度支那
シャム
マレイ半島
スマトラ
ボルネオ
爪哇
セレベス
ニウギニア
濠洲
ルソン
ミンダナオ
福州
厦門
基隆
打狗
香港
マニラ
西貢
シンガポール
サンダカン
タワオ
ザンボアンガー
ダバオ
メナド
バリックパパン
マカッサー
スラバヤ
スマラン
バタビヤ





新高丸ノ入港

稲造

ふくあき
月を川風と
いかにして
波のいさごと
まきちらすらん



ザンボアンガにて

吹渡る椰子の葉風が
涼しさに
夏の暑さも忘れはするらむ

有枝



記者の小照さ左は久留島武彦氏

序

今春臺灣に領臺貳拾年紀念共進會が催された、臺灣はあらん限りの歡待を盡して內外の觀客を迎へた丁度又此の時を期して總督府は大阪商船株式會社に新に補助金を支給して打狗を起點として南支南洋の各地に定期航路を開かしめた、其の初航海に我新高丸が、就航することゝなり爰に臺灣總督府と大阪商船が主宰する六十餘名の南洋觀光團が組織されれた、一行中には博士あり學士あり貴衆議員あれば

地方の名譽職もあり、各種の專門家技術家もあれば雜誌新聞の記者もあり銀行會社の關係者もあれは株式業者もあり書家もあれば鑄金家もあると云ふ次第で各方面に亘つて殆んど網羅せられざるなしと云ふ有樣であつた、其の團長としては臺灣研究所長高木友技博士、顧問として新渡戸博士浮田前バタヒヤ領事島津男爵なんど云ふ顔振れであらゆる方面の機關は整ふた、總督府から各國殖民地官憲へ通告もあり又時節柄日本帝國の立場もあつたからで

あるが斯くして新高丸の向ふ所、觀光團の行く處として、實に空前の大歡迎を亨けたのである、或る所の如きは殆んど國賓に等しき待遇を以てし軍艦を以て送迎すると云ふ騷ぎ方であつた、而已ならず航海中は殆んど毎日の如く新渡戸博士を始め各專問家の南洋に關する講演と經過地に對する視察報告があつた、幸にして吾輩も團員の席末を汚かして居た爲めに生來の鈍物も斯くして日々南洋の智識を注入せられざるを得なかつた、多方面に亘る觀察は吾

輩の到底なし得る處でない、其中で只農園經營の事に就ては聊か注意を集め乍ら過ぎた、又之等に關する著書も可なり集め得た、歸來觀光中に種々見聞研究した事を彼是綜合して「護謨と椰子」と題してコヽに本書を著はした次第であるが素より劣才寡聞、言文亦頗る拙、氣獨り鋭なるも筆は容易に暢びず、讀者乞ふ雜駁を咎め給はず本書によつて南洋に於ける農園經營の内容を察知し同地方の良果美味を獲得すべく參考の一助となるを得ば記者の光榮は之に

過ぎぬのである、終に臨み本書を草するに當り更に材料を與へられたる各位に敬意を表す。

大正五年丙辰

得　菴　識

目次

第一 護謨

目次

目次終

編中用語

一英反（噎）は四反十八歩…四八四〇平方ヤード

一バウは一英反七五六〇五…八反〇二歩

一ヘクタールは百米突平方…約一町歩

一平方哩は六百四十英反

一弗（新嘉坡弗）は約我壹圓拾弐銭

一盾（瓜哇ギルダー）は約我八拾参銭

一ペソ（比律賓）は約我壹圓〇五銭

一英反廣サ早見表

220 ヤード	×	22 ヤード	=	1
121	×	40	=	1
110	×	44	=	1
88	×	55	=	1
69½	×	70	=	1

護謨と椰子

野村德七著

第一　護謨

一　護謨樹栽培の起源と馬來半島の狀況

護謨樹を栽培して液汁を採取し之を固形護謨にすることは比較的近代のことである、其れ迄は專ら野生の護謨樹から液汁を採取して居たのであるが、今より約四十年前英國の植物學者で倫敦のキューガーデンの園長をして居たフーカーと云ふ人が、亞弗利加の野生護謨を東印

度地方へ移植せしめんことを企て人を派して良種を撰ばしめ、最初は之をコロンボに植へて見たが全然失敗に了つた、以來苦心を重ねた結果彼は自分のキユーガーデンの温室内へ試植したところ、今度は甘く發芽したので之を培養して馬來の各地方へ再移植して遂に成功したのである、之の時は恰も我明治八年に當るのであるから南洋否世界に於ける護謨栽培事業は僅々四十年の間に實に今日の如き發達を遂げたのである、而して世界の護謨需要の約半は其の本場たる馬來半島より供給して居る、今馬來半島と以外の栽培地との栽培面積比較を見る

に左の如き割合となつてゐる。

馬來半島(海峽殖民地を含む)	七六七、〇〇〇英反
錫蘭	二四一、〇〇〇
蘭領東印度地方	五七一、〇〇〇
其他	五六、〇〇〇
合計	一、六三五、〇〇〇

壹英反(噎)は我約四反十八歩に當る

尙ほ馬來半島に於ける護謨園の數及び植付採取中の地方別並びに我邦人の經營する護謨園等の表を掲ぐれば左の通りである。(新嘉坡日本人栽培協會調)

	馬來聯邦州	海峽殖民地	ジョホール	ケランタン	トレンカヌ	合計
園數	八一七	二〇五	一一三	一四七	八	一、二九〇
拂下英反數	八二二、七三三	二三九、一四三	二四四、三六二	一三、九五九	三六、一五四	一、三五六、三五一
護謨植付英反數	四九九、八八二	二二一、八六九	一一九、三三二	五五、九三一	一、七〇三	七九六、二二七
護謨ト他作物混成	二、六六七	六、〇九一	一、三三七	四、七一八	一〇〇	一四、九一三
護謨採取中英反	二五、二〇一	一三五、六九二	一二、九九〇	九、二六五	—	一八四、一四九

右ノ内日本人經營護謨園

	馬來聯邦州地方	ジョホール	新嘉坡	合計
園數	四一	四六	四	九一
拂下英反數	五、〇〇〇	六四、〇〇〇	一、三七二	七〇、三七二

植付英反數	三、五〇〇	三六五、〇〇〇	一、二六二	四三、二八二

右の表の如く馬來半島に次ぐは蘭領東印度、錫蘭、其他は主としてボルネオ地方を指すものであるが今日は依然馬來は本場たり又將來も永く本場たり得るであらう、其は半島の地五萬四千平方哩即ち約四千三百五十萬英反中現下の拂下面積は全體の約三十分の一植付面積は漸く六十分の一に過ぎぬのであるから前途尚ほ綽々として開拓の餘地を存して居ることが判る、而して此の地に於ける外人經營の護謨會社中成績の優秀なるものを擧ぐれば

社名	創立年號	資本金	拂込資本金	一株額面	一株拂込	積立金	配當	時價	利廻
[illegible]ゴム園ミンジザート	一九〇三年	三〇、〇〇〇磅	三二、五[illegible]磅	二志	二志	二五、五〇〇磅	三、五	二、三	一、四[illegible]
リンギー耕園	一八九五	二五[illegible]	一一〇、〇〇〇	二	二	六[illegible]	二、[illegible]	一[illegible]	一、[illegible]
セノキー[illegible]ドゴム會社	一九〇七	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇〇	六、五	四、[illegible]五	一、五
アングロ、マレー、ゴム會社	一九〇五	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	二	二	一七、五〇〇	[illegible]	一[illegible]	一、三[illegible]
バ[illegible]、チガ（錫蘭ゴム會社）	一九〇六	八〇、〇〇〇	七四、[illegible]〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一七、〇〇〇	四、五	三、一五	一、二[illegible]
カスローノキード（ケラン）ゴム會社	一九〇六	四五、〇〇〇	四三、四〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一三、五[illegible]	四、五	五、〇[illegible]	九[illegible]
サンギー、ウエー（セランゴー）ゴム會社	一九〇四	六〇、〇〇〇	五八、六六六	一、〇〇	一、〇〇	五、五〇〇	五、三	三、一四	一、四[illegible]
サザー護謨コムハニー	一九〇四	二五、〇〇〇	二三、〇〇〇	一、〇〇	一、〇〇	八、九〇〇	四、[illegible]	六、一〇	六〇
マラツカ護謨耕園	一九〇六	一、〇〇〇、〇〇〇	二三八、九六四	一、〇〇	一、〇〇	一六、〇〇〇	四、〇	四、一[illegible]	八八

ロンドン、アジアチックゴム及製作物會社	一九〇七	一六〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	二	二		四、〇	七	一、一四
ダマンサラー（セランゴール）ゴム會社	一九〇六	一二〇、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	一、〇〇	一、〇〇	二四、〇〇〇	四、二	三、〇五	一、三〇
シセリーゴム園會社	一九〇四	一六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二	二	三五、〇〇〇	四、〇	一七	五〇
同五分優先株			六、〇〇〇	二	二		四、二五	一三	六四
ゴルーンズーゴム會社	一九〇七	八八、〇〇〇	八八、〇〇〇	一、〇〇	一、〇〇		四、	三、〇	一、二〇
バツケーブム護謨會社	一九〇四	三〇、〇〇〇	二六、七五〇	一、〇〇	一、〇〇	三、〇〇〇	一八、五	三三、〇	一、五四
エヂンバラゴム園（セランゴール）	一九〇九	四五、〇〇〇	四二、五〇〇	二	二		四、五	一	九〇
ハイランヅ、ローランヅパラゴム會社	一九〇六	三五〇、〇〇〇	三〇九、四八一	一、〇〇	一、[illegible]	七〇、〇〇〇	三、五	二、一五	一、一七

サンヂーノロード護謨會社	一九〇四	一二五,〇〇〇	一二五,〇〇〇	二	二	一四〇,〇〇〇	七〇	一三〇	[illegible]
バホボーリウェー護謨園會社	一九〇五	二〇〇,〇〇〇	一六六,三三〇	一	一	二〇,〇〇〇	四、五	四五〇	一、二[illegible]
アローガッチャ護謨園會社	一九〇九	一二〇,〇〇〇	一二〇,〇〇〇	一	一	[illegible]〇,〇〇〇	四、〇	[illegible]、五〇	一三〇
パシャン有限責任會社	一九〇九	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	五	五	一〇〇,〇〇〇	四、〇	一六、五〇	一、[illegible]
マラコフゴム會社	一九一〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一	一	一〇〇,〇〇〇	一、五	四、五	一五五

有之外資本金の大なるはラバープランテーションス、インベストメント、トラストで此會社は千九百九年に創立せられ資本金貳百萬磅拂込百四十萬磅（邦貨千四百萬圓）五分の配當をして居るが之は單に護謨園經營の目的でなくて資金供給を營業の主眼として居る爲め自ら別と

見ねばなるまい而して純粹の護謨會社の大部分は貳參拾萬圓から百萬圓位迄のものが多數を占めて居る、之等の外人經營の會社が百十餘ある中千九百九年乃至十年頃より以前に創立されたもので護謨液採取開始後に至つて今尙無配當の會社とては殆んどない、而かも其の優秀なるものは前記の如く十割乃至二十割以上の配當をして居るのである。

我邦人經營の主力はジョホール河の兩岸に注がれ三五公司を第一とし三井、藤田、古河、森村等の諸富豪は云ふに及ばず多數資本家の護謨園があつて其の面積はジョホ

ール州護謨園の三分一強を占め今日は牢として抜くべからざる一勢力を形成されて居る、今其の主なる耕地數箇所を示せば

管理持主の名義	場所ト耕園名	拂下英反	開始年月	植付英反
愛久澤氏	ジョホールベンガラン 第一ベンガランゴム園	三、二九九	一九〇六・二	三二四
愛久澤氏	ジョホールベンガラン 第二ベンガランゴム園	三、〇九三	一九〇六・二	五九七
愛久澤氏	ジョホールサンチ サンチゴム園	二、〇七八	一九一一	一、〇二三
愛久澤氏	ジョホール、セムブロン 第一パッ、パハットゴム園	二、一七五	一九〇九・二	二、九五六
愛久澤氏	ジョホール、スリガーデン 第二パッ、パハットゴム園	九、六七一	一九一一・八	四、六六二
藤田男爵	ジョホール河ナンヘン ナムヘンゴム園	五、八三九	一九一一・一〇	四、一五四

三井男爵	ジョホール、チンジョン、セリンデット サンギーパンゴム園	五、〇一七	一九一一・一	四、七六八
南洋護謨株式會社	ジョホール、チモン 南洋護謨園	三、三三五	一九一一・二	一、八三〇
森村氏	ジョホール河テロック 南亞公司第一ゴム園	二、九七八	一九一一・九	一、七七八
	ジョホールバナン 南亞公司第二ゴム園	二、〇〇六	一九〇九・一〇	一、一九三
古河男爵	ジョホール河チラン サンギー、チラン、ゴム園	二、六〇〇	一九一〇	二、六〇〇
鈴木氏	ジョホール河チラン 鈴木ゴム園	二三一〇	一九一〇・一〇	一、四〇〇
井上氏	ジョホール河ブラカパンチヨー 馬來護謨拓殖會社	一、八九〇	一九一三・一	一、二一〇

此等邦人護謨園の大部分は千九百十一年前後に始められて居る爲めに其の初年度に開拓せられた部分が漸く昨年末若しくは本年頃から弗々護謨液を採取し得べき

樹齢に達して來たのである、故に未だ成績の大に見るべきものは無いのであるけれども、概して豫期の養育を遂げつゝあることなれば、今後日を追ふて採取開始反別の増加に伴ふて必ず盛況を呈することは疑あるまい所謂多年の丹精は今日以後に於て始めて酬ひらるゝのであると信ずる、千九百十四五年の頃は連年注入して來た資本は嵩んで來る、一方經濟界は世界的に大不景氣となる、護謨の直段は崩落する、今一と呼吸で切り付け開始（採收開始）に漕ぎ着き得ることは分つて有ても資金難の爲め投げ出しを餘儀なくせられた護謨園もあつた、近年支那人

經營の分で此等の事情の爲めに邦人又は英人の手に移つたのも尠くない、思へば大正三年の頃は何つ地も秋の夕暮れであつたと見へる。

二　何故に護謨に適するか

世界の中でも特に南洋、南洋の中でも又馬來半島、錫蘭、蘭領東印度、ボルネオ諸地方が何故護謨樹の栽培に適するの？之れには三つの必要條件がある。

一　沃土にして氣候に激變なき事

一　雨量の多き事

一　暴風の無き事

蓋し此等の地方はモンスーンにて調節せらるゝ爲めに赤道附近としては比較的氣候温和である、西北利亞地方の極寒一月の頃は亞細亞大陸に高氣壓が出來る反對に濠洲では夏であつて氣候は甚だ暑く氣壓從而低い其處で大氣は亞細亞から流れて濠大陸に向ふ、その道筋に當る此等の地方は西北の風と多量の雨が降る、此時が即ち雨期である、七月は右と全然反對の事になり風位は東南に變じ爪哇の如きは連日雲霧に閉さるゝのが常態である、此時を乾燥季と呼んで居る、此の二期の中間は過渡季であつて人體に餘り宜しくない時である、即ち一年を二

分すると十一月乃至五月は雨期五月乃至十一月は乾燥期と云ふことになる、護謨の元産地たるアマゾン河沿岸では二回の雨期と二回の乾燥季がある外凡ての氣候が馬來半島より瓜哇西部邊の情況に酷似して居る、南洋も東方に進むに随て適當とは云ひ得なくなる、瓜哇島沿岸の平均温度は華氏八十四五度であつて新嘉坡は平均(最高九十一度七)(最低七十四度)、八十三度馬來聯邦州は高地多きため幾分低く平均(最高九十度)(最低六十九度)七十九度、五スマトラは平均(最高八十八度)(最低七十七度)八十二度、五英領ボルネオは平均(最高九十度)(最低

七十三度)八十一度、五と云ふ邊である、雨量は何れも多く二千五百粍より三千五百粍の間を往來して居る、雨期には午後一二回必ず覆盆の大驟雨があるのが通常である、此の毎日午後に雨のあることが護謨の爲めに天與の配劑とでも云ふべきであつて若し午前に降雨があると護謨液が洗ひ流さるゝため採取事業は不可能に終るのである。

カロリン群島に發生する氣壓は夏より秋にかけて呂宋の北部から臺灣の方向へ襲來し日本々土の沿岸を掠めることが亦御定まりであるために、比律賓の北部は暴風

圏内に入つて居る、呂宋島の南部に行つて漸次薄弱となり、ミンダナオに入つて全然無風地帯となる、而してそれ以南の土地は前記の貿易風而已で風の爲めには頗る安全地帯と云ふことになる。

三　蘭領に於ける護謨栽培業の一般

蘭領に於ける斯業は近年著るしき進歩を示して居る、其の最近植付總反別は五十七萬一千英反に上り千九百十四年の輸出貿易額は貳千七百拾萬盾(一ギルダー邦貨八拾錢强)と計上されてある、主なる産地はスマトラ東沿岸と瓜哇西部である、蘭領ボルネオは僅かに百五十萬盾其

他の東印度諸島の合計が同じく百五十萬磅に過ぎぬ、瓜哇に於ける政府會社及個人經營の護謨園數は三百七十五の多數を算し得るも小規模のもの多く、其等の護謨園の植付反別及種別はヘビヤ種十二萬七百五十二バウ(一バウは一英反七)フヰカス種一萬四千九百九十八バウ、リスチロア、アニイポツト種九千六百十一バウ總計十四萬五千三百六十一バウ約十七萬英反である。

護謨會社として世間に知られて居るのは二商の東印度護謨會社であるが其一は前年失敗し他は白耳義の會社に併合せられた、瓜哇人は主として開墾の事業には從事

するが相當の利益を收めて經營者に賣渡し自分直接護謨事業に關係するものは少ない從て護謨事業に投せられた資本は英佛白獨蘭の所謂外資であつて次の如き額に達して居る。

英國	八九、〇〇〇、〇〇〇盾
佛及白	二一、〇〇〇、〇〇〇
和蘭	一八、〇〇〇、〇〇〇
獨逸	一、五〇〇、〇〇〇
計	一二九、五〇〇、〇〇〇

其總額は邦貨の約壹億參百六拾萬圓である

蘭領に於ける護謨會社は其組織一定せず專ら此の國の慣習を遵奉せられてダッチインヂアン會社の形式に依て組織せられ政府より長期小作權を得て經營して居る、此等の會社の多くは叉創立當初の株式を募集したる場所に委託會社を造り其れに依て凡てを處理して行く故に實際は委託會社英、佛、白、蘭、に有り）が萬般の計畫を施して居るので爪哇にある會社は單に事業出張所と云ふ有樣である。

政府所有の護謨園に就ては政府は十年前農林局管轄の下に護謨園を開始しヘビア、フヰカスの兩種を試みて實

好なる結果を認めたる以來所々に官營護謨園を企畫し各園に行政官を任命し、その事業は農林局の護謨事業理事官にて統轄し漸次發達を示してゐる、最もフヰカス種は不良なりとあつて今は專らヘビア種を採用して居る

四　英領ボルネオの狀況

最近藤井領事報告の一節に

當國の產出に係る護謨の輸出は漸く千九百十四年に始まりたるものなるが同年に於ける輸出額中ブルネイ市附近の馬來人及支那人の栽培園より產出せしもの千百六十封度に達しラブ拂下地より產出したるも

の五千八百九十四封度に達したり千九百十五年に於てゾルネイ市附近の多數の栽培園は漸く其の産出期に達し同地方よりの輸出高二萬五百六十封度に上りたり護謨園よりの産出高三萬千七百七十五封度に增加したり、次にゾルネイ護謨園は千九百十五年七月一日に切付けを開始し年內に輸出せし高三千七百二十八封度に達したり、其他數會社の工場及家屋を建築して採液準備をなせるものあり、千九百十五年末に於ける護謨栽培地の面積千二百九十畝採液面積四百〇八畝にして千九百十五年後半期に於て護謨の價格騰貴

せるにより幸にも同國政府の勸誘に從ひし栽培業者は收益を得たり、其結果ブルネイ市附近に於て最近所有林を開拓して盛んに護謨苗の植付けをなすに至れり、要するに千九百十五年に於てブルネイは相當の進展をなしたり、歐洲戰爭の爲めに日用品の騰貴を惹起したるは事實なるも、土人部落の平穩なる生活は之により少しも攪亂せらるゝ事なかりき、同國將來の繁榮に關しては縱令其進步の遲々たるを免れずとするも有望なる石油新坑の發見と護謨栽培事業の發展とは確かに同國未來の繁榮を指示するものなるべし云々

之のブルネイ及びサラワクの二國は今でもサルタン（王）が有て王國と稱して居るも英の保護領であつてブルネイの王樣などは一年壹萬五千圓の當飼ひ扶持である、外に英領北ボルネオ會社領有地と區劃を伴して英蘭ボルネオを成して居る。

英、蘭領を合した大ボルネオ島はニューギニアに次で世界の島の最大なるものである、最も濠洲がヨリ大島であると云へば亞米利加も亞弗利加も島と云はねばならぬが之等は大陸であるボルネオは蘭領が二十一萬二千七百三十七方哩、英領が七萬五千三百九十九方哩合計二十

八萬八千餘方哩もあつて、我臺灣の二十二倍帝國の全領土よりも尙二萬八千方哩餘大きいのであるが、人口となると之れは甚だ少くて蘭領が漸く百五十萬人、英領が四十一萬合計二百萬人に滿たない、同じ南洋中の瓜哇が三千萬人も住んで居つて一平方哩五百八十七人當りの(我九州が五百二十二人、四國が四百七十六人)極度の稠密に對し之れは又僅かに一平方哩七人當りの極端の稀薄である、勢ひボルネオ島は全く未開地である。ボルネオが南亞弗利加と共に世界の動物園に猛獸奇鳥の原供給地として知らるゝ所以も略推測に難くない、玆にコツいう斷

がある、或る日一人の賣藥行商がボルネオの奥深く入つて行つた、すると此の島の名物ヲーランウータン(大猩々)がやつて來て行商人の手を取つて彼女の住家へ連れて行つて仕舞つた、而して半月餘りも猩々に養なはれて居た、毎日色々な美味い木の實や菓物を澤山に取て來て喰はせる爲めに餓へることはないが猩々共の監視が嚴重であつて中々逃げることも出來なかつた、元の場所へ半月計り經つて放還せられたときは行商人の眼は落ち込んで瘠せ衰へて這ふ〳〵の體であつたと云ふことは南洋に旅したものゝ皆一度は聞かされる所である、今一つ

の噺はサラワグの王妃に在る英國婦人が上がつた、彼女は王妃と云へば虚榮の權化と思つて居た數年の後王妃は故郷に錦を飾る積りで其王樣と共に倫敦に歸つたけれど都の人々は之の王樣達に一向尊稱を奉らなかつたので彼の女は非常に落膽し失望し遂に氣が狂ひ出したとの事である、色々の神秘的の話を藏して居る此のボルネオ島と我邦との關係は瓜哇(ジャガタラ)と共に古くから聞へて居る、明和元年の頃高木作左衛門に朱印を與へブルネイ北の地和蘭に屬し云々とか又本船難破してボルネオの北の小島に漂着蘭人に救はれ九年目に歸ると云

々など古事記などにも見へ居る。

○英領北ボルネオ株式會社

英領ボルネオの最北端が英領北ボルネオである、千八百七十五年の頃英人アルフレッド、デントと墺地利人オートベルベックの二人此の地に來りブルネー國王に迫り之の地方を獲得して倫敦に一會社を造り、デルストン、サンダカン等に根據を置いて開拓事業を始めた、其後此の事業を繼承して今の英領北ボルネオ株式會社が今より三十幾年前に創立せられ今日に及んで居る、本社は倫敦に有つて資本金は貳千萬圓、領有土地面積三萬千平方哩、臺

灣の二倍餘大、人口二十一萬、臺灣の十五分の一(日本の土地會社とは大分違つて居る)利益配當は毎年五分を永く續けて居る、其收入は主として租税、關税で有て支出は行政費大部分である、千九百十五年の收入は貳百四拾餘萬圓支出百貳拾萬餘圓、此の中にはガバナー(知事)の年俸四萬圓レシデント(地方行政官)同五千圓當りなども含んで居る、此の歳出入の差引剩餘百貳拾餘萬圓の中から配當を支拂て居る、會社に對して政府は政府の承諾なくして他國臣民又は政府へ土地の賣渡を禁ずと命令して居る、ガバナーは本國の重役會議で推撰するが任命は殖民省

を通じて政府よりする、此のガバナーは其他の役人を一切任命し軍事、司法、財政、經濟全般を掌る、乍然外交面已は英政府の所理によることになつてゐる。

宣教師の血が其本國の色に地圖を塗りかへる具に用ひられて居らねば、サルタンの爭中一方に味方し又は內訌に附け入て同士討させして遂に彼等を掌中に丸め込んで去勢術を施すのが歐洲人の殖民地占領術ときまつて居る中に今一つ此の北ボルネオと似た樣な經路のものが馬來聯邦州にあるダフと云ふ探險旅行好きの一英國人が礦山技師を伴ふて馬來の奧地を旅行してケラン

タンへ來た、其處は暹羅領であつた、處が其折にケランタンのサルタン(王)が非常に金の入用に迫つて居つた、ダフは之れに付け込んで二千磅でケランタン一州を買ひ受くる約束をして急ひで英本國に歸り友人間を奔走して一萬磅(拾萬圓)を調金して直ぐ引き返へして來て彼れは先づ盤谷政府に此の度ケランタン一州をサルタンから讓り受くる契約を實行の爲めに來たから豫め御通牒に及ぶと申し入れた、暹羅の政府は寢耳に水で驚ひた、口實を設けてダフを引き止めようとしたり、密使を立てゝ、他に買手を造つたり種々妨害を試みたがダフは之等に先

立て入國しサルタンに堅き賣渡證を造らしめ取引を結了した、サルタンには本國よりの迫害が來たとて我は英國の兵力で保護してやるから心配すなと申聞し直に盤谷政府に其不都合を鳴らした、尚彼れは英國公使に次第を打ち明け助力をこひ置き急ぎ再び英本國に取つて返へし外務、殖民兩省に英領とせらるべく申出た、英國政府も一寸當惑したが容易に埒が明かぬので然らば佛蘭西政府へ賣つてもよいかと突込んだ、其れ以來五千方哩のケランタン州は英領となつて仕舞つた、而も其れは今より僅かに十八年前の出來事であると新渡戸博士が話された、

思へば日本の殖民地は之等から見ると高價なもの計りである、殖民地の經營に至ては英人は實に上手である極めて少人數で要所〳〵を押へて居て其全力を富源の開發に注いで不生產的なことはしない、尙新渡戸博士は殖民地經營の容易ならぬことを說かれた中に元來殖民地は別莊の樣なものである、下手にやると妾宅の樣なものにもなる本國が餘程しつかりして居らねば此の爲めに貧乏したり禍ひの種が蒔かれる、上手に開拓された殖民地は本國を富ましむることも大きいが其れは中々容易でないと云はれて居る實に其の通りである、西班牙葡萄

牙か香料島探險に熱中した時代から各國が爭ふて新領土を世界の各方面に漁つた、今日迄各國殖民地の變遷を眺めても其の興廢の甚だしいものがある、或人の評に英人は殖民地に第一に稅關と銀行を造る佛人はオペラ西班牙人は寺を建てる、蘭人は道路を築き、獨逸は兵營を置くと最も適評である而して英人は英語を紳士の言葉であるなど云ふて居るも實は商人の言葉である、佛蘭西が社交の語であつて西班牙は說敎に伊太利は詩の用語でなければならぬ一應の眞理がある、瓜哇やセレベスの道路はどんな田舍迄も自働車の通らない處はなく人をし

て之れが南洋であるかを疑はしむる位である、ダンドルスの様な人が出てタマリン並木の二十間幅の大道路を瓜哇の西から東へ六百數十哩を貫通せしめたのも蘭人である、至る處に寺院がある休日に婦女は教會で神妙に說教を聞いて居る、男は皆鬪鷄に血眼になつて居るのは比律賓である、西班牙人は實に善事と惡事とを殘して置いてくれたと零して居るのは米國である、佛領西貢へ行つて見ると町の中心には貳百萬圓を投じたと云ふ堂々たる佛國式の裝飾を施されたオペラがある、其廻りは例のカッフヱーであつた、其處になると矢張り英國人は感

心である、印度圓億の民を僅かに二千の英國役人によつて統治せられて居るなどは他國人の一朝一夕にやり得る仕事でない、我國でも滿州は滿鐵にやらすべしとの名案もあつたそうだが彼れと之れとは事情が違ふ、會社に殖民地經營を許したのは危險の分擔主義から初まつたので一時は之を便宜なりとし東印度方面では英國は皆此政策を用ひ西印度にも流行したに、此種の株式會社が隨分專斷の事多く時に配當の如きも非常に高率に上したり屢策士の乘ずる處となり政府當局者迄加擔して歐洲の財界に容易ならざる大波亂を書かしめたのは千古に

滅することの出來ない醜事である、會社の殖民地經營は軍事費を餘程節約し得る而己ならず經營にも思ひ切つた事をやり得る特長がある、議會などで事理に通じない議員連に口を出されては餘な仕事は出來ようもあるまい、之れは最もであるが然しスミスは殖民會社は貧弱なる國王であるといつた、平和會議などは反古同然、同盟も協商も御都合主義で結局は弱肉强食、勝者生存の動物性に復歸しつゝある、今日は兵備の無い國は到底國たり得ぬ、殖民地とて無論である、若し日英同盟がなかつたら南洋の殖民地はどんなになつて居るだろう、英領ボルネオ

會社の如きがあるのは不思議な位である、話が段々橫道に深か入りしたが其の英領北ボルネオ會社は我邦人の來つて開拓事業に從事することを頗る歡迎して居る。

○タワオに於ける久原鑛業株式會社經營農園

ゼスルトンは英領北ボルネオの首府であるガバナー（知事）はゼスルトンに半年とサンダカンに半年宛居る、將來はサンダカンを首都とする豫定だそうである、サンダカンの管轄内には二萬四千英反の護謨園がある、人口は漸く一萬に滿たぬのである故未だ開拓事業の微々たるの

も無理はない、タワオは更らに〳〵避村である戸數は僅僅五十戸位住民も數百に過ぎぬ未だ地圖の上に存在すら認められて居ない、之の地のレシデント(理事官)はミッツルトンと云ふ人で稅務、郵便、司法、行政一人で二十幾つの役目を帶びて居る、戸締の無い家に住んで兵士は皆印度兵であるが總數十二人居る計り、交通は新嘉坡からサンダカン迄每週一回定期航海(二百噸)が開かれてあるがそれからタワオ間は八十噸の小船の沿岸航路によるのであるから新嘉坡から十二日間費へるそうである、目下は此の如く實に寂寞たる所であるが港は良し、土地は非

常に肥へて居る、往古より未だ人の入らざる處女林が海岸から一哩も行くと奥地迄無盡藏である、天狗猿が實を銜へ木の上を枝から枝へ飛び廻ると云ふ光景であるから全く寶の山の鍵は來て取り次第と云ふのである、だから今は寒村でも將來は吃度蒼海變じて桑田となる類ではあるまいか、見様では此の邊が南洋中のクロスに當つて居るから未來に臺灣が日本の殖民地の中央にでもなるときはそれは〱驚くべき盛になるのかも知れぬ、扨て**久原農園**は其タツオの海岸から一哩計りの處が始まつて居る、元は英領ボルネオ會社即ち此の地の官營農園で

あつたので昨年末頃から植付られた一部が護謨液採取樹齡に達して來たが元々會社は營利事業は目的でなく又許るされてない故に適當なる後繼經營者を求めて居つたのを昨年十月に久原鑛業會社に買收せられたのである、此の面積は五百五十一英反、代價は貳拾萬圓見當と承知して居る、園内は一年乃至五年生の護謨樹が整然として培養され發育狀況は餘程盛んである、之れをジョホール州馬來半島等に比ぶると確かに五年生で七年生位に達して居る樣である、久原會社は更に隣地二千三百英反の拂ひ下げを受けて目下頻りに開拓中である、護謨精

製工場、倶樂部、土壤試驗所等は既に設けられ病院長寄宿舍等も建設中である、護謨液は一部既に採取中であるが明年中には一ヶ年一萬斤に達せしむる見込であるとの事である、此の農園の豫算なども手にして居るがこれは機を見て申上ぐる事としよう、三菱農業部も此の地に望を囑し久原農園に隣りして五千英反計り拂下げを受くるべく吾輩が新嘉坡滯在中其の主任農學士某氏と久原會社の野田儀一郎君は英領北ボルネオのシバホーと相作ひてタワオに向つた。

五 土地に關する法規



久原鑛業株式會社ボルネオに於けるタワオ農場



久原鑛業株式會社ボルネオに於けるタリオ護謨園



ボルネオの名物天狗猿

○馬來地方

護謨樹栽培に就ての第一要件は土地の問題である、之は各國各地に於て多少宛相違して居る爲めに悉く詳說し得ないが、馬來半島、海峽殖民地ジョホール州等は、土地拂下希望者に於て隨意に土地を撰定して出願する政廳より認可を與へらるゝとき一英反に對し八十仙の測量費及拂下料として一等地は參弗(壹弗は我約壹圓拾五錢位)二等地は貳弗(各一英反につき)の割合にて計上し納附する、土地は有りさゑすれば幾英反でも制限はない、其地權は永代であつて所有權は地權證書を下附されて證明さ

れる、地租は地權下附の日より向ふ六年間は毎年一英反に付銀五拾仙、七年度よりは貳弗五拾仙宛を上納する定めである、護謨は普通滿五年に達すれば採取期に入る故七年目より高くしてあるが之は經營者には苦痛とする處てない。

○蘭　領

蘭領全體は私人に七十五年以內の小作權を與へて居る此の地上權は期限到來せば更に繼續することを得とあるが七十五年は既に永代の如きものである、乍然瓜哇では現今政府より直接租借し得る土地極めて少ない而已

ならず、殆んど絶無の有様である故勢ひ地主より借入又は買得せねばならぬ地代は餘程高下がある樣である。

租借地は租借の日より五年間は無税、六年目より一バウ（一英反七）に付五拾錢から壹盾（邦貨八拾錢）位（所によつて違ふ）の地代を納める、此の小作地代は最初政府より競爭入札に附して決定する形式を取るのである、大阪の川原儀六商會のマカッサル支店長佐藤氏が租借して居らるメバロー島の如きは僻遠なる爲め地代は一バウ拾錢である、セレベス島メナドの附近にある森林地で良い地面の賣物があるが之は壹盾の地租の所である。

ニャトソに於ては最初租借權を得る爲め税金として一英反に付三磅を徴收する政廳がある、尚毎年地代を徴收することも無論である、思ふに之れは馬來半島の掛下法に習ふたものと察せらるゝ、尚一つ變處に面倒なる事は土人に與へられたる果實採取の權利でもつて政府より租借して得たる土地に若し土人の權利の存する場合は土人に幾分の代償的金員を與へて取り除く必要がある、而して小作權者たるには次の資格の一を要する定めである。

一和蘭臣民

二　和蘭本國の住民
三　蘭領印度住民（外人は永住權を要す）
日本人の永住權を得る資格は瓜哇ならば二ヶ年、外領ならば半ヶ年、以上其地に居住し正業に從事せる者
四　和蘭又は蘭領東印度にて設立せられたる會社
右の小作權は次の原因の一によりて消滅す
一　七十五年の期限の經過したるとき
二　合　併
三　資格の消滅

四無効の宣告

蘭領は本來土地國有政策に重きを置き外人に容易に土地所有を許さず、之れ無智の土人等が所有地を保護する意味を含めるのであると。

小作權の外土人に關する規定は左の通りである

一所有權

二地設權

三家屋に對する特權

四抵當權

五雇傭權

六 同國法による優先權

右は多く蘭人及土人に關するもので外人には殆んど適用せられぬのである。

不動産に對する抵當權は和蘭の國法と大同小異である抵特に變つたる點は收穫物の上に及ぼせる權利である抵當權が收穫物に對し先取權を持つに至たのは千八百八十三年及其後兩三年同島の珈琲に病菌を生じ爲めに多くの企業及之に關係せる多數の商事會社が財政上頗る悲境に陷つた時に一時債權者の爲めに權利を確保し救濟を容易ならしめその目的を達せん爲めに急速に設定

した便法でクロップモルゲージ(農産物抵當)として有名なる法規である、最も之は其の年の收穫で歐洲に輸出せらるべきものに對してのみ有效で米は除外するとある。

此の他同國には護謨事業に關し精製器械の發明特許法職工保護法等を設け斯業を一面から奬勵し一面からは監督して居る、又盜難に對しては極端なる取締法が敷かれてある。

一　耕作中の立木護謨樹を買取る事を禁ず

二　官廳の許可を得ずして精製護謨を所有することを得ず

三自己の耕園にて產出せる以外の護謨を蓄ふべき建物を所有することを禁ず

○英領ボルネオ

此地方は大㕘馬來半島諸地方の法規に據られて居る、處による と地租の引き上げが一年位ひ早い地方がある

○比律賓

比律賓には官有地が非常に多い之は西班牙時代の寺院に莫大の土地を以て居つたのを引き上げた爲めである邦人が土人から土地を買得することは自由である、又法人を組織して官有地の拂下を出願すれば千〇二十四へ

クタール(一ヘクタールは百米突平方、約一町歩)迄の土地の拂下げを受け得らるゝのである、出願を受けた當局者は新聞に廣告して右の土地を一般の競爭入札に附す、最高額の落札者が若し二人あつて其の一人が出願者なる場合は之を出願者に落札する規定であるが、多くは形式で豫め政府にも拂下値段が有つて其れに入札すると落ちるやふになつて居る。

入札保證金は入札の際入札金額の四分の一に當る丈を添へて差し出す、殘り四分の三は落札全時に支拂ふものと、五回に分割支拂ふものと、五ヶ年後に至り一時に支拂

ふものとあるが延べ拂ひには凡て六分の利子を附ける定めである。

土地拂下價格は一ヘクタール十ペソ(一ペソは邦貨約壹圓)以上と規定せられてあるが、政府は開拓者を待ち迎へて居る爲めに大方は右の最低卽ち一ヘクタール十ヘソで落札する樣である最も政府土地の拂下げは法人以外個人としては米人又は比島人でなくては許可されぬ、故に是非共法人によらねばならぬ、而して之れには名義丈にても土人を一二名加へて置くを便宜とせられてある、現に太田恭三郎氏の太田興業會社はミンダナオ島に拂

下げ租借地を合して四千百餘町歩を收め開拓しつゝあ
る外に土人の爲めにホームステートの方法が設けられ
てある、之れは最初二十ヘツを納むると十六ヘクタール
の土地を下げられる、此の土地は二年間に二町歩を開墾
する責任がある、而して五年間は其土地に居住せねばな
らぬ、開墾を終つた時に更に二十ヘツを納附する等の定
めで宅田法としては頗る有利であるに拘らず一向移住
希望者がないそうである。

六　土地の選擇

開拓すべき土地の良否は事業の成蹟に多大の關係を及

ぼすべきものである故最初に充分なる比較研究を遂げ能ふ限り善良なる土地を撰擇せねばならぬ、後に至り缺點障害等に遭遇しても容易に變更し得るものでなく事業の性質が永久的のものである丈一層輕々に着手してはならぬ、土地の氣候、温度、雨量等が適良である以外に交通の便利なること、衛生上健康地であること、勞働者を得易きこと等が揃ふて居れば理想的である、南部印度地方では四千呎の高地に迄栽培を試みられたれど、成績は不良に終りセイロンにても二千呎より二千五百呎の高地に試みられたるも木は瘠せて丈のみ高く液汁多からず

且風に倒れ易くして成蹟不良を示して居る、スマトラ東海岸なるサーダング地方の山地にも護謨園があるが之は全然撰定を誤つて居るとのことである、瓜哇にては海面上千五百乃至二千呎の丘陵地に栽培して居るもの尠からぬが之は前者に比較して幾分良好ではあるも、低地にあるものに比せば無論劣つて居る護謨は茶、珈琲のように高地栽培には適せぬのは明かである、之の外勞働者の供給は護謨の市價が近年の如く低位にある場合殊更大切なる問題で要は液汁の量がよく生産費を償ひ相當の利益を舉げ得るや否やが採算の根據であり撰擇の要

件であらねばならぬ。

○平地よりは森林

平地開墾は最も手數を要せず費用も餘程節約し得られる殊に煙草や砂糖等を栽培して居つた土地などは灌漑から地面上の整理等も完全であり隨て蟲害等の憂ひも尠く耕作頗る容易である、斯る土地はマラッカ、ジョホール、新嘉坡等の附近に多い、然し之等の地面は遠き以前よりタピオカ、ガンビア、パインアップル等の流行的栽培に幾年か轉々土地自然の肥料は使ひ盡くしたるが如き感もあれば栽培上充分なる土地とは云ひ難い、元來支那人

は永久に土地を培養し保護することを顧慮せぬ結果、かゝる地面に植付けられたる樹は沃土に培はれたるものと樹齢同一で發育は半ばに達せぬものもある、此の現象はジョホール南部等に折々見うくるのである、又瓜哇の珈琲畑に植へられたものも同一である、乍然また瓜哇の方は土地其者が餘程沃土である故二三年間施肥して元の如く回復せしむることは困難でないそうである、之に反し森林地は燒却、伐截等に尠なからざる勞力と費用を要するも土地の肥へ居ることは無論且つ耕圃に必要なる諸材料は伐木により充分に當へ得る利益も有て栽培

業者は前者より無論後者を喜ぶのである。

七　開墾

鬱蒼として古代より斧鉞入らざる處女林へ何等の防備なくして突入すれば毒瓦斯の爲め一命を失ふことがある、ところが土人は一種の臭覺を有して居る故之を案内者として徐ろに侵入すると危險がない、而して森林燒却に際しては

一　雨季を避くる事

一　隣地又は隣接栽培地等の欲せざる方面へ延燒せざる樣用意する事

一樹根は可成發掘すること

等がその主なる注意である、大木の根が殘ると往々白蟻等の巢穴となる故掘り取るか、火藥を用ふるか、捻ぢ拔き動力器を用ふるかして拔除する必要がある。

雜木雜草等の燒却し得るものは悉く燒却し起伏地は整理し、或は蒸氣鋤を用ふると便利なる處もあるが多くは苦力を使役し樹根を除き、雜草を拂ひ、平面に整頓せしむる作業を爲さしむるものであるが、熱帶地の屋外百二三十度の炎天に之等の荒蕪地開墾の事業をなし遂ぐるのは眞に盤根の勞力を要するのである、何れの護謨園でも

此等の作業の爲め勞働者の犠牲を出すことは中々尠く無いのである。

○道路と水路

道路は交通運搬上極めて適したる樣構築せられ、主要道路は荷車の運搬上雨季に破損せざる樣十分の注意を拂はれて居る、道路に伴ふて水路である、水路の大なるものには地勢に應し橋梁の必要もある、又地質により砂多ければ水路を多く設くる必要もない、急傾斜の土地は雨に流さるゝ恐れある爲め適當なる土止め等も必要である道路幅は首要路幅四呎此の築造費一哩五百圓、水路は深

さ幅共三呎にて一英反參拾圓見當とせられて居る

○耕地區劃

耕地は整理上努めて便利なる樣區劃せらるゝので多くは道路に添ふて五十英反宛に區分するを適當としてゐる、其各區劃の隅々にペンキ塗の制札を立て植付年數、樹數、耕地番號より切付開始等迄一見明瞭なる事項を揭載せられてゐる、かゝる區劃及整理法は極めて便利なる方法で今日は何れの方面に何事をしつゝあるやは机上に的確に指示し得る而已ならず內地資本家に報告するにも最も便宜である、同一の區劃內に同一年齡の樹を植へ

る事は無論である、愈々耕地の整理を終ると、栽培の作業を始めねばならぬ、が少し專問的になる様であるが聊か護謨樹の組織から述ぶることゝしよう。

八　護謨樹の組織

世上では一口に護謨と稱へられて居るが護謨にも隨分澤山の種類がある、併し爰に目的とする護謨は即ラバーを收穫し得るもので植物學上の實名はヘビアである、通常植物の生長條件を滿すべき根、幹、枝葉共に生存に必要なる働きをして居ることは他植物と同一である、繁殖としては異性花受胎作用に依り結實するのであるが花は

白色で一種の香氣を有し多く一結して物の如く開花し結實すると內に三個の種子を藏し熟すると種子が自然に飛び出して四散する、幹は圖の如く一般に五の部分に分類し得るのである。



一、中心、木質であつて人體の骨の樣な作業をして居る

二、白木質、人の體肉の如き部分で地中より吸收した營養分を各所に普及せしむる働きをして居る

三、は極めて薄き部分であるが働きとしては外部に對す

る兵站部で外包の缺陥を補ひ外皮の損傷の復活力を執る作用をして居る

四、皮質部、目的とする護謨液の通過する部分で其枝葉より得る營養を導ろ下部へ運ぶ通路である

五、樹皮であつて外部よりの侵害を防ぐ作用をなす部分である

以上は幹其のものゝ作用の概畧に過ぎぬが各部共に微妙なる働きをして居るのは勿論である

九　栽培に必要なる諸作業

○種子と發芽

護謨樹は皆實生である、二月と七月に古葉が落ちると一方新芽が熾んに出る、花が咲く、六月頃に實が熟する、一包に三つの種子が入つてゐる、大なる種子は大きくて強ひ木を生む、一般の原理に從ふて護謨栽培には競ふて之を撰ぶ、最上等の實は馬來半島で一萬箇貳拾圓位の相場である、之等の種子は八割迄發育し僅かに二割を失ふ標準になつて居る、之の種を遠方より供給せらるゝ塲合は手早く新らしい種を撰んで運搬せねば役にたゝぬことがある、一例を云へば瓜哇の栽培業者が種子をスマトラから取り寄せたる塲合に折惡く船が瓜哇に着したる際虎



樹苗床に於ける護謨苗



植付九ヶ月後の發育



植付十八ヶ月經過



三年生護謨樹



四年生護謨樹



五年生護謨樹



六年生護謨樹



護謨の老樹と採汁

疫流行して艀内消毒等に荷卸しが約十日計りの遅延を來たし其の結果大部分發芽せず僅々五分當りの生育を見たことがある、種蒔後發芽せざる分を發見すれば再び種蒔きをなさゞるべからざるなり、或者は種を數日間水中に浸し發芽せしもの而已を取り出し植へ付くる向きもあれど斯くては發芽力を弱められたものとして排斥する人もある、種蒔に就ては直に耕地に蒔くを勞力の經濟なりとするものと樹苗床に養成し苗木として植ゆるを得策とする二つがある、何れにするも種蒔は地下一吋で充分である淺く蒔くときは發芽は直に日光に觸れ生

長く早からしむる利益がある、深く置くときは地下の作用の爲め却て腐敗せしむる恐がある、二三粒の種を一纏めに蒔くと最も強いものが發芽する強者生存の理は此邊にも實現されてゐる。

○樹苗床の培養と移植

種子を直に耕地に蒔くよりも、樹苗床を造り若木として耕地へ移植することは現今殆んど一般に行はれてをる方法である、之は一方に開墾作業に從事せる間に一方樹苗床にて若木を養成する利益があるからである、之の樹苗床は土壤を試驗し適度に施肥し、地下には樹根發育上

障害物なき様用意し、種は唯土の蔽はれたる丈に鋤き間隔は普通一呎に置く、樹苗床に培養する期間は約一ヶ年乃至十五六ヶ月である、若木は發育力速かなもの故長きに失するときは枝葉相互に接觸し却て繁殖を阻害する、一定の伸長を見れば直に耕地へ運ぶ方が良ろしい、苗木の移植には一本宛籠に入れ、沃土を與へ其儘土地へ置くもあれど籠の底淺きは根を曲らしむるを以て、底を取り地中に通せしむる注意が必要である、瓜哇では、一本宛特別成分土にて培養することが流行して居る、其の結果本の發育は二倍大に成長せしめられたるもある、東部瓜哇

のリムバーグ地方は之の方法の最も發達せる所と認められて居る、扨て此の若木の移植に就て耕地の準備は勿論であるが、若木を抜き出し根の不充分なる所は切り取り、曲りたる根は直にし又發育到底不滿足と見るべきは容赦なく放棄する、之は弱き發育不良の木は永久に不利益なる爲めである、移植に就ての間隔は最も大切であるから後段に詳説するとして氣節は乾燥季を避けねばならぬ蓋し若木を弱らしむるからである、植付けの仕事は苦力一日一人五十本が日課と見てよいようである、植付後は日々其後の發育に注意して不充分の木はずん／＼

植へ換ゆる面倒を見ねば後日整理に手數を要する恐がある、三年生の中に一年生の樹があるなどは菓園とは申し兼ぬるからである。

○樹の間隔

樹と樹の間隔を幾呎とするかに就ては永い間に亘つて專門家に硏究され否尚されつゝあるのであるが、間隔を多くすればする程一定地域内に於ては木の數と反比例し又餘りに間隔を縮むると木の發育を害し收穫液量に失ふ處多き爲め結局損失となる故に適度に植へ付けるべく餘程考究せねばならぬ次第である、今縱横幾呎の間

隔にて一英反何本の木を植え得るかの表を掲ぐることゝしよう。

	10	12	14	15	16	17	18	20	21	22	24	30	32	36	40
10	435	363	311	290	272	256	242	217	207	198	181	145	136	124	108
12	363	302	259	242	226	213	201	181	173	165	151	121	113	103	90
14	311	259	222	207	194	186	172	155	148	141	129	103	97	88	79
15	290	242	207	193	181	170	161	145	138	132	118	96	90	82	72
16	272	226	194	181	170	160	151	136	129	123	113	90	85	77	68
17	256	213	186	170	160	150	142	128	122	116	106	85	80	73	64
18	242	201	172	161	151	142	134	121	115	110	100	80	75	69	60

20	217	181	155	145	136	128	121	108	103	99	90	72	68	62	54
21	207	173	148	138	129	122	115	103	98	94	86	69	64	59	51
22	198	165	141	132	123	116	110	99	94	90	82	66	61	56	49
24	181	151	129	118	113	106	100	90	86	82	75	60	56	51	45
30	145	121	103	96	90	85	80	72	69	66	60	48	45	41	36
32	136	113	97	90	85	80	75	68	64	61	56	45	42	37	34
36	124	103	88	82	77	73	69	62	59	56	51	41	38	35	31
40	108	90	79	72	68	64	60	54	51	49	45	36	34	31	27

例令ば十四呎に十四呎縦横の間隔を置くときは一英反内に幾本の樹を植へ得るやを見んとせば最上段の十四

の筋と左端の十四の筋との交會點二二二、即ち二百二十二本を植へ付け得る計算を得るのである。

馬來半島では從來十四呎に十四呎が採用せられて居つたが、近來は十八呎に十八呎に傾ひて居る(一英反百三十四本中には二十呎縱横(百〇八本)を取るものもある、漸次大間隔流行の傾向である、最も肥へたる土地は樹數幾分多きも差支なかるべく之に反して瘠せたる地には過重となるべきにより鹽梅する必要がある、樹の間隔を大きくすれば木の數に於て不經濟なれど木の發育宜しかるべく隨て液出量を増す故に之の考慮も大切である。

馬來半島に於ては二十呎標準の間隔で左の如き度合の生長を見る。

	四方の枝を圓周としたる圓徑
四年生	十六呎
五年生	二十呎
六年生	二十五呎
七年生	二十七呎
八年生	三十呎
十年生	三十五呎
十二年生	四十呎

スマトラに於ては恐らく一呎宛の遅れあるべく、セイロンに於ては又スマトラより一呎宛一年に遅延するであらう、木の間隔十二呎宛の如きものは四年の後に上枝互に繁り合ひ日光線の下入を妨げ下枝の發育を充分ならしめざる恐れがある、樹の發育上朝夕の日光を總體に受くることは植付後數年間は特に必要なることである爲め此の如きは絶對に取らぬことである最も下枝は液汁採取の場合邪魔になるべきものを漸次切り拂ふべきが發育を害せざる様顧慮し幹とすれ〳〵に切り拂ひ切口へはタールを塗り置く、之は切口から蟲害又は他の害物

侵入を防ぐ豫防手段である、暴風の時若し下枝の折れ龜裂の入りたる塲合も其部分を取り拂ひ前と同樣の手入を施すのが肝要である。
樹の間隔を二十呎とした塲合でも右の表に見れば上枝相觸れんとし七八年の後には下枝の發育を妨ぐる程度に繁茂するを常として居る、斯く植付間隔に就ては利害錯綜して居るがスマトラでは珈琲畑に植へ付けたる塲所多き故珈琲の如く極めて遠き距離二十四呎より三十呎位に植へ付けられて近距離の害を見ることなく、之に反しセイロン及馬來地方は耕作地小規模なる爲か近距

離植付の弊害を見受くることが多いのである、更植付間隔と發育狀態の比例を見ると

間隔	樹齡	幹の廻り	六ヶ月間の増加
二〇呎に二〇呎	四年半	二〇吋1/4	二吋3/8
三六呎に一〇呎	四年半	二〇吋3/4	一吋1/2
一八呎に一〇呎	四年半	一五吋3/4	一吋

右の統計を見ても發育の度合は距離に伴ふて著るしき差を生ずるものなる故大に注意を加ふべきである、液の採取を始むる一二年は大間隔のものは樹數少き爲め量に於て小間隔のものに劣ると雖も年を經ると共に液量

増加し終局の勝利たるは疑ふべからずである、稍々極端なる例であるなれども一英反僅かに四十八本を植へ付け一本に付き一年百封度の固形護謨を得べき迄に成育せしめんか一年に一英反四千八百封度の護謨を得る計算となり、近距離植付より收むる一年一英反の量が四百封度(良き部)なれば前者は一英反を以て優に後者の十二英反に比適することになる、然し之は理想に過ぎずして實際は六七年目より收穫を見ねばならぬ都合もあればかゝる大間隔は實際は許さるゝものではない

○除草と樹の保護

耕作地一圓に蔓延する惡草ラ、ンの除草刈取りは繁殖の速かなる爲め耕園の最も費用を要する作業である、大規模の耕園は之か爲め日に數百の苦力を使役して居る最も間斷なく精勵して除草を行へば遂に猛烈に繁殖せんとするラ、ンも全く其の根を絶つに至るのである、場所によると之の除草作業を苦力に受負でやらせる所もある。

木に傷の入りたる場合は注意して速かに其部分に塗せねばならぬ徒らに放置するときは生長して其の傷口より液汁を漏出し多大の損失を來す而已ならず樹其も

のにも危害を及ぼすに至る、白蟻其他蟲害に對する專門的處置は爰には省くことゝする。

○動物被害の防禦

動物の被害中山豚は恐るべき農園の敵である、山豚の群が一度耕地に侵入し來ると二三年未滿の若木は護謨でも椰子でも一夜に千本位は根を堀り葉を喰ひ滅茶〱に荒らしまくられるのである、山豚は非常に繁殖力の早ひ奴ゆゑ一頭は數ケ月に二十頭位の割に殖へる、一度山豚に侵入されんか全部狩り出すことは餘程困難であると云はれて居る、或る島の耕園であつて何處からも彼等

め侵入する道がないからとて安心して居たら干潮に際して他の島から渡つて來て知らぬ間に皆苗木を喰ふて仕舞ふたなどは決して珍らしくない噺である、防禦としては鐵條網、木柵等を圍らしたり或は番人に見當り次第發砲して撃退せしむる處もあるが鐵線の網を張るのが一番成蹟がよいそうである。

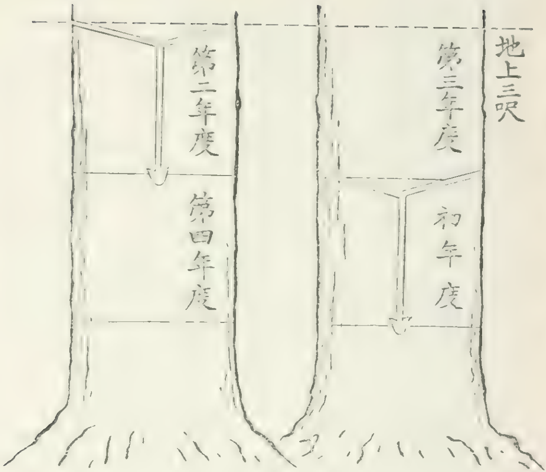
十　切付けと採液

護謨樹が液汁採取に適する迄に成育すると切り付(タッピング)を始むるのである、其發育程度に就ては植付後九年迄は切付不可を稱ふる人もあり又地上三呎の点が周

圍十八吋に達する迄は採取宜しからずとする說もあれど、事實は五六年を經て地上三呎の處にて周圍十五吋に達するを標準として一齊に切付けに着手せられて居る、最も木の若きものは生長せるものに比し液量及護謨の步留りも劣るのは當然である、其割合は七年半の樹の液には三十パーセントの護謨を含むが五年生の木では二十パーセントが護謨で八十パーセントは水である、步留りの少い分には從つて彈力も乏しい譯である、要は木の發育を害せざることも考へ、成るべく品質の良好なる液を多量に採取する工夫が肝要である。

○タッピング

切り付けは一の技術である誤つて深く切り込めば木を傷け又淺ければ液の出量が少ない、護謨園では練習木を定めて苦力等に絶へず練習せしめて居る、切形は色々に工夫せられてあるが何れにするも樹の高き部分上方より切り始めることは不可としてある、ＹＥ日▱螺旋形等色々ある、又切り付け面を木の半面に而已施すものと兩面に施すものとある、近來最も多く行はるゝ切形は假りに樹幹を縱に半截し其の半面の下部をＹ形に切り付け、翌年は其反對面の上方に（圖參照）翌年は初年度の上方を



第四年度は第二年度の下方を、都合四年間に樹幹を一周する間に初年度の切り付面は全癒して舊態に復して居るから第五年度は又初年度の位置に戻つて切る、卽ち四年一周の切り形である、毎朝一回未明に護謨液採收の爲め切り下ぐる度合は極薄き外皮と皮質部であつて、一ヶ月に漸

く二時即ち一ヶ年に約二十四時の極めて徐々として切り下がるのである、之の毎朝續いて切り下がると云ふ事と一定の間を休めて切ることに就ても又利害論があつて木を休めると無論壽命が長いが液の量は休めた間丈多量に出る譯はない、結局秩序の無い切り方は液汁を損する而已ならず却て木の發育を害する事が多い、切り口の秩序整然たらしむるには切り付開始前に樹幹に白又は赤にて線を引き其線に從つて苦力に切らしむるがよろしい、木を切るに就ても塵芥が液汁に交らざる樣木の面を清掃し液汁の通路に高低凹凸ある場合は平坦なら

しめて液汁の通過を容易ならしむる準備を要する。苦力一人の仕事としては受持ち樹數二百五十本乃至三百本を普通として毎朝早天より切り始め二三時間に切り終る、午後は出た液汁を採收すると云ふ日課である、之の勞働賃は日雇ひのもあり樹數で拂ふのもある、熟練せる苦力は日當六七拾錢になる、耕園では採取費として圓形護謨一封度に付五六片我貳拾錢より貳拾五錢迄、スマトラに於ては最もよく整理せられたる耕園では一封度當り拾錢迄に節減しつゝある處もある、尤も之は液出量に大關係が有て切り付日尚ほ淺き間は費用嵩み年を經

るに伴つて低減すべきは勿論である。

採液を始むると出量の經過に就て注意を離してはならぬ、若し急に減量した塲合は樹に故障のある證左である、蟲害其他充分に原因を精査し應急の所置をすべきである、經營の一要件として耕園の一部に採液せざる部分を殘し置き採種又補充の目的に當てる、採液された木の種は無傷の木に比して弱いのは當然である。

○バーグスの小刀

採液用の小刀は始め色々に造られ各自好き〳〵に使はれて居た様であるが當今はバーグス氏のナイフを專ら

使用されて居る、經驗の結果は無智の土人に木を害することなくして要する深度に達せしむる樣ならしむること、單純平易に使用され掃除及手入に手數を要せざること、等を主として重視されて居る、英國品は壽命は長いが値が高い、獨逸品は安くて使ひ頃である、然し戰爭で來ない、日本に注文したが日本品は暫くすると切れなくなる依て是非なく高い〳〵英國品を買つてるとの不足もあつた、農園によると苦力の使用するナイフを一定の場所にかけさせ持主とナイフを調べて若し手入を怠り居りたるものには日々の支拂より罰金として減に手入の届

きたる者に賞として増賃を與へ居るのもある、ナイフの手入の惡ひ樣では到底滿足なる仕事をして居らぬからとの事からである之れも一種の獎勵法である。

○液汁收容コップ

流れ集まる液を受け入るべきコップか不潔なるときは液汁を汚がし良品を得難き故常に清淨にされてある、之れも初めは鐵器又は鐵に鍍金したものを用ひたれど錆を生じ液を惡化するため其後廢止されて硝子製が之れに代つた、硝子は掃除も容易で錆の憂ひもなく、最もよいことはよいが一の欠點は高熱に自然破傷を來たし此の

破片にて苦力の負傷する者を生ずるのと、土人苦力等の盗み去つて自家用にすることである、之れば底を丸くして防ぎはしたれど今は更にアルミニユームコツプを用ふることが追々と流行して來た、高價なのが欠點であるけれども命數の長きことと重量の輕きこと、掃除の容易なること等の爲めに歡迎されて居る。

此のコツプの座は針金にて幹に取り付けられ、取り置き自由にしてある、塵埃又泥沫等のコツプへ入らぬよう地上へ置かぬ、幹よりはコツプへ液汁の流入するよう幹へ樋を差込むのであるが之は樹を損せざるため薄くして

強き金屬製を用ひられてある。

コップの液汁は蓋のあるバケツに集められる、液汁の太陽に晒らさるゝを厭ふのである、手頃のバケツは持運びに便利であるが一々バケツを工場に運ぶは時間の經濟もあれば、遠い處は運搬車に收容する、小さき運搬車は人力であるか大なるには馬車、更に大仕掛なるものは輕便軌條を敷けるのもある、鐵道は普通の軌道ではなくて一本軌道の簡便のものである、然し之は平坦なる土地に適し起伏地には不適當である、高地運搬には索道「針金」を使用されて居るのもある。

○護謨樹の命數と液量

六七年目から液の採收を始めるとして初年度は一英反から固形護謨百四五十封度の收穫がある、翌年からは年を追ふて三割乃至五割宛增加して、十年以降は四百封度以上に達し其盛況を十數年間續け行くと植付後二十四五年目に達するに及んで追々と衰へ出して出量も減退する、木の壽命はまだ〳〵長いが經濟的有利に採收し得る命數に先つ二十五年とせられて居る。

十一　固形護謨の製造

工場に集められた液汁はよく攪き廻はされ且よく濾過

される、掻き廻はすのは上へ不純物が溜まつて薄い皮が出來る之を取り除く爲めで、之れは次等品に入れられる此の如くに清淨されたるものは一等品となるので、之を凝結せしむる方法は液汁其物の質により多少相違はあるが多くは少量の醋酸を混入して凝結せしめる、工場では更に之を壓搾器械にかけて厚薄、廣狹、自由自在の板又は塊と思ひ／＼の模樣マーク等も刻み込むのである、之等の動力は石油發動機が多く用ひられて居る、器械類は英米等より輸入されて居るが戰後は又獨逸品が多くなるであろう、要するに護謨液を固形にすることは頗る簡

單なる作業である。

○製品と等級

産地製出の護謨は多く一、二、三等に仕分けられる、一等品としては一切の不純物を含有せず、二等品としては前者より稍々劣り、三等品はコップ、バケツ又は機械等に附着したる如きもの迄も寄せ集めて精製したるものの故品質は最下等なるのである何れの農園でも一等品として佳良の製品を出すことに勉めて居る、若し惡評を蒙るときは全部及將來の値段に影響する爲めである、普通に生産せらるべき一、二、三等の割合は

一等品	八〇
二等品	一五
三等品	五
計	一〇〇

の比例であるが一層細く等級を附する工場では

一等品	七五
二等品	五
三等品	一〇
四等品	五
五等品	五

計　　一〇〇

とする處もある、上等品を多くするよりは劣等品を安價に賣出すのも賢き方法である、單に工場の一等品精製能力而已を見て不經濟と斷ずることは出來ぬ、市場に其の工場の製品が特待さるゝや否やを考へねばならぬと云はれて居る、何の製造も同じ事である。

○乾燥とスモーキング

乾燥室は外氣(濕氣)の侵入を防ぎ同時に多くの空氣窓を造り換氣を計るべきこと、床に濕氣を呼ばざるため可成コンクリートとなすべきこと、建物も許す限り鐵骨にし

六十呎に四十呎位の廣さに建つること等が要件としてある、之等一切の建設費は參千七百七拾圓と示してあるが馬來半島の或工場は百呎に三十呎の乾燥室に八千圓を投じたのもある、之は大氣に依る自然乾燥であるが蒸氣力により高壓乾燥空氣を送り乾かしむる裝置を施すものもある、乍然此乾燥法は費用最も多くを要し一封度貳拾五錢位にも達するから不經濟である。

次はスモーキングである、煙蒸乾燥に用ふる建物は耐火性で幾分空氣の流通も注意せねばならぬ、品物が可燃性なる故往々失火の恐れあれば工場は可成他の建物より

離す必要がある、燃料は薪を以て最上とす。

○荷造り

荷造りは木製の箱に收む、此等の木材は伐材して用ひ得る處もあり、又開拓の際より伐材を蓄へ置く向きもある作然此等は別として他は大部分購入されて居る、運賃との關係上輕くして頑丈なるを重寶せらる、内側は滑かに削らざれば柔き品物故途中損傷の憂ひがある、外側は二條の帶鐵、米國行は全國鐵道會社の荷物運搬亂暴なりとして三條の帶鐵にて締られ、箱には數量品目等が表記されてある。

十二 勞働者問題と移民

瓜哇に三千萬の住民が居る事は例外として、其他の地方は開拓事業に伴ふ最も困難なる問題は勞働者である、勤勉なる從業者である、強ち人口の少くない地方でも一體熱帶地の土人は勤勉なる勞働者でない、然らば彼等は性來の懶惰者であるのであらう？、之は最も常夏と云ふ氣候の加減第一にあらうけれど、最大原因は衣食住たる生活上の三大要素が頗る簡易なる爲であると思ふ、假令ば年百年中夜中でも七十度位より寒くならぬ爲め裸體でも一向差支へない、着るには(南洋のホテルのベッドには

決して毛布は用ひぬ）一着のシャツ一枚のサルン（腰を覆ふ更紗）があれば男女共に事が足りる、食物は一日分五錢か拾錢もあれば困らぬ、ヨシ金がなくとも天惠の果物が彼等を飢へしめぬ、住むにはアタップ（椰子の葉）で葺ひたゞ家之が彼等の爲めには金殿玉樓である、之れなくとも何時如何なる場所と雖も惰眠を貪るべく彼等の厭ふべきでない、熱帶の暑熱は寧ろ彼等をして屋外睡眠を便宜とせしめて居る、近き例は我々の船がベーコン河を溯つて西貢の河の岸壁に着ひた頃丁度上陸を待ち受けて居る澤山の馬車や人力車の苦力の頭上へ雷光一閃と共に

猛雨沛然として來た、ドウするかと見て居ると彼等はシャツも腰布も取り外づして車中に仕舞ひ込み素裸體で平然と雨に打たれて居る、彼等からは一切の着物は寧ろ面倒であり不必要であるが餘儀なくされて居るのである、此の土人此の苦力連をして財の爲めに勤勉たらしむるのは又骨の折れる譯である、左りとて賭博に保護を與へ彼等は之れに望む貨を勞働に得るべく導くなどは西班牙の闘鷄奬勵を罵詈出來ぬことになる、護謨園の酒保に諸種の品物を陳べて精々彼等の慾望を煽るのは寧ろ上策と見た。

英領ボルネオの官憲では支那内地の同國領事を通じて頻りに移民を招集して居る、領事の證明する移民には旅費を與へ、家を建て前貸をして迎へて居る、福建省邊の者は餘程成蹟が良いそうである、新嘉坡邊では多方面から勞働者を輸入して丁度内地の紡績工女を勸誘する樣にして居る、之れでも支那苦力は一人前參四拾弗かゝる樣である、然し成蹟は輸入勞働者は甚だ良いとの事である、タワオの久原農園は瓜哇土人を專ら使ふて居た、勞働者の色別は馬來半島の北部はタミル印度人を主とし馬來支那人相次ぎ南部は馬來瓜哇支那人の割合である、ジョ

ホールの南洋護謨拓殖株式會社は百十八人程の現在使役人の中七十五人迄は瓜哇人であつた、瓜哇は労銀の安ひところである、彼等の労働は普通午前六時より十二時迄午後二時より四時迄一日八時間の平均で賃金は弐拾五仙位より参四拾仙のもの多く、液汁採取に從ふものでも六拾五仙位迄である、将來賃銀は高くなるかも知れぬが労働時間が瞳ましい米國の八時間労働に符合して居るのは妙である、日本人は苦力使用の點には遙かに英人等よりは秀でゝ居るとの評である、一種の威嚇が利くのであらうか。

前記の如く南洋は富源開發の爲めに何れの國民たるを問はず移民勞働者を歡迎して居るに不拘困つたのは米領比律賓である、曩に加州に移民を排斥し去つた影響は比島にも及ぼして表面支那人は入國拒絶とある、日本の移民も入ることは出來ぬ、乍然それでは比島は何時迄も立ち行かぬ土地は漸く十分一より開かれて居らぬにも不拘土民は懶惰極まつた輩而已である此の儘では自繩自縛と知つて今では公然ではないが移民は左したる面倒なしにずん〳〵入れて居る。

十三 護謨園と資本 附 收支豫算

護謨園開拓に要する資本は土地の情況と規摸の大小によつて一定せず、交通便利にして勞銀安く開拓地平坦ならば存外資本を要せず、之に反せば自然増加する、馬來半島にては一英反貳百弗を標準とせられて居る、又英人の計算中には貳百五拾弗乃至參百弗とするものもある、但し之は單に三百英反とか五百英反而已を開拓するものは此の範圍の經費にて完成するものとは見難い、然るに大規摸に年々隣地を開拓し行くものは年を逐ふて年々開拓費の節約を見るのである、今馬來に於て一千英反を開墾するとして(以下便宜上圓位を以て計算す)

一千英反開墾六年間支出合計

概　算

一金三八、〇〇〇円　一等地一千英反拂下料一英反參弗宛測量費同八拾仙宛

一金三〇、〇〇〇　六ヶ年間租借料一英反一ヶ年五拾仙宛

一金一〇、〇〇〇　道路、水路、工作及修繕費

一金三五、〇〇〇　森林燒却開拓費及栽培諸費

一金六〇、〇〇〇　除草費動物被害防禦費其他手入費

一金六〇、〇〇〇　支配人一、助手一、監督一、書記一、通
　　　　　　　　　々に助手監督を增加す俸給手當

一金二五、〇〇〇　護謨精製工塲其他設備費

一金一〇、〇〇〇　試驗費

一金三二、〇〇〇　其他費用及豫備費

　計金參拾萬圓

右は六年度迄の支出合計であるも滿五ヶ年にて翌年より採取に着手し得るに至らば右の支出は餘程減少する

而して收入は

初年度　六萬圓(七年目)

一英反一ヶ年百五十封度と見、一封度の相場二志三片とせば壹圓拾錢强內製產費一封度七拾錢當りとして利益一封度當り差引四拾錢として一千英反一萬五千封度分

第二年度　八萬圓(八年目)

第二年度は約三割增加一英反二百封度と見て二萬封度四拾錢當りとして

第三年度　拾貳萬五千圓(九年目)

第三年度は全じく二百五十封度一千英反二萬五千封度とし經費は六拾錢當りと見一封度純益五拾錢

とす

第四年度　貳拾貳萬四千圓（十年目）

第四年度は一英反三百二十封度とし經費五拾錢當り純益七拾錢とす

十一年目收支

收入　四拾八萬圓

第五年度は一英反四百封度に達し一千英反より四十萬封度一封度壹圓貳拾錢

支出　拾六萬五千圓

內譯

除草其他手入費	一〇、〇〇〇円
採收費	六七、二〇〇
製造費	二二、四〇〇
給料報酬雜給	二〇、〇〇〇
醫療費	五、六〇〇
衛生警察	二、〇〇〇
租稅公課	一三、〇〇〇
販賣費	二一、〇〇〇
建物修繕費	一、八〇〇
其他	二、〇〇〇

差引純益

金參拾壹萬五千圓

以降毎年略右に同じ

以上を通算すれば事業開始より六ヶ年間に投じたる參拾萬圓の事業費は七、八、九の三ヶ年間に貳拾六萬五千圓を回收し得る事となる、若し六年間の經費貳拾六萬五千圓にて足り居れば最初の六年間の投資は其後の三ヶ年間に奇麗に償却し得る事となる、而して翌年度は貳拾貳萬四千圓其翌年よりは毎年參拾貳萬圓卽ち十割餘の利益を舉げ得る計算となるのである。

○ボルネオに於ける某農園の豫算(賣收價格約貳拾萬圓)

年度	面積	一英反ニ付生産量	生産量	賣上價格	一封度ニ付生産費	生産費用	輸出税	利益
一九一六年	四四一英反	一五〇封度	六六、一五〇封度	六六、一五〇	七五仙	四九、六一二	一、六五三.七五	一四、八八四.二五
一九一七	四四一	二〇〇	八八、二〇〇	八八、二〇〇	六〇	五二、九二〇	二、二〇五	三三、〇七五
一九一八	四四一	二五〇	一一〇、二五〇	一一〇、二五〇	五〇	五五、一二五	二、七五六.二五	五二、三六八.七五
一九一九	四四一 四〇	三〇〇 一五〇	一三二、三〇〇 六、〇〇〇	一三八、三〇〇	四〇	五五、三二〇	三、四五七.五	七九、五二二.五
一九二〇	四四一 四〇 四〇	三五〇 二〇〇 一五〇	一五四、三五〇 八、〇〇〇 六、〇〇〇	一六八、三五〇	三五	五八、九二二.五	四、二〇八.七五	一〇五、二一八.七五
一九二一	四四一 四〇 四〇	四五〇 二五〇 二〇〇	一九八、四五〇 一〇、〇〇〇 八、〇〇〇	二一六、四五〇	三二	六九、二六四	五、四一一.二五	一四一、七七四.七五

今後六年間に利益金收入高總計四拾貳萬六千八百

四拾參圓

備考　輸出税率は價格の二、五パーセント賣上相場は一封度一、〇〇と見積る

○同地に於ける新開墾地豫算

支出總額五拾壹萬弗

植付當年より四年度迄總計費一英反に付百七拾弗替三千英反分

年度	經常費	加工費及切付費一英反に付	加工費及切付費	輸出税	合計	一英反に付生産封度	收入	純利益
第五年度	五五、〇〇〇弗	一五弗	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
第六年度	五五、〇〇〇	二〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

第七年度	五五、二〇	五、	三七五、一	一九三、五二	四四九、三五一	三五一	七五、二〇	三〇、七五二	五九
第八年度	五五、〇一	四一	三六、一	二二、五〇	四七、五二	三一	九、一	四六三、五一	九、
第九年度	五五、二一	三五	三七五、一	一六三、五一	四四八、七五	二五	六、五五、一	六一、三五一	一一七

○タンジョンランサの護謨園

武吉丹戎樹梶公司と稱されて支那人の有であつたのを當春四拾萬圓で南洋護謨拓殖株式會社へ賣られた、拂下地は六千六百三十英反からの廣汎なるものであつたが四千八百四十英反は未開墾のまゝで有つたのと地租の引上期が明年に迫つて來る爲に政廳へ返却されて正味は千七百九十英反である其内譯は二十五英反が椰子林

で植付未了地が七百〇四英反殘り一千〇六十一英反。
護謨林を樹齢年度別にすると

一年未滿	四八
二年未滿	九二
三年未滿	一一〇
四年未滿	二六七
五年未滿	四九五
六年未滿	三〇
七年未滿	一九
計	一、〇六一

外に

椰子林　二五

植付未了地　七〇四

（動物被害地を含む）

合計　一、七九〇

買收後直に護謨液を採收しつゝある部分は五年以上の五百四十四英反であつて賣收當時は月額四千封度位に過ぎなかつたが整理進捗に從て追々增加して居れば結局初年度に於ては六萬五千封度位の收穫を得べきかと思はれる、又植付未了地七百〇四英反は荒開墾を終へた

き、打捨てられて有たか又は例の山豚に喰はれた動物被害地である故に除草作業に少々手を入るれば立派な耕園となるのであるから今後開拓費としては恐らく大きい金を要せぬと思ふ、左表第一は累年護謨收穫概量と收入豫算、第二は收支勘定と資本に對する利廻りの豫測である、會社企業目論見書中にある豫算とは最初の間は多少の懸隔あるのを遺憾とすれど、後にはより以上遙かに大なる利益を擧げ得るを疑はぬのである、尚植付未了地の拓殖費は毎年經費より支出して行く勘定になり居れど之は資産勘定に繰込まるるとも異議なきものなれは

第一表

年度	五、六七年生 五四四噫	四年生 二六七噫	三年生 一一〇噫	二年生 九二噫	一年生 四八噫	新植付 七〇四噫	採集噫數	總听	一听當	金額
大正五年初年度	一二〇听 六五、二八〇						五四四	六五、二八〇	一、二円	七八、三三六円
大正六年二年度	一五〇 八一、六〇〇	一二〇听 三二、〇四〇					八一一	一一三、六四〇		一三六、三六八
大正七年三年度	一八〇 九七、九二〇	一五〇 四〇、〇五〇	一二〇听 一三、二〇〇				九二一	一五一、一七〇		一八一、四〇四
大正八年四年度	二四〇 一三〇、五六〇	一八〇 四八、〇六〇	一五〇 一六、五〇〇	一二〇听 一一、〇四〇			一、〇一三	二〇六、一六〇		二四七、三九二
大正九年五年度	二七〇 一四六、八八〇	二四〇 六四、〇八〇	一八〇 一九、八〇〇	一五〇 一三、八〇〇	一二〇听 五、七六〇		一、〇六一	二五〇、三二〇		三〇〇、三八四
大正十年六年度	三〇〇 一六三、二〇〇	二七〇 七二、〇九〇	二四〇 二六、四〇〇	一八〇 一六、五六〇	一五〇 七、二〇〇		一、七六五	二八五、四五〇		三四二、五四〇
大正十一年七年度	三五〇 一九〇、四〇〇	三〇〇 八〇、一〇〇	二七〇 二九、七〇〇	二四〇 二二、〇八〇	一八〇 八、六四〇	一五〇听 一〇五、六〇〇	一、七六五	四三六、五二〇		五二三、八二四
大正十二年八年度	四〇〇 二一七、六〇〇	三五〇 九三、四五〇	三〇〇 三三、〇〇〇	二七〇 二四、八四〇	二四〇 一一、五二〇	二〇〇 一四〇、八〇〇	一、七六五	五二一、二一〇		六二五、四五二

大正十三年九年度	二七六、四〇〇	一〇六八、四〇〇	三八五、三五〇	二七六、三〇〇	三九六、二七〇	一九七、二八〇	一七五	六〇〇、五八〇	七〇六九七
大正十四年十年度	二七六、四〇〇	二六八、四〇〇	四〇二、四〇〇	[illegible]三五〇	一四四、三〇〇	一八六、四〇〇	一七五	六九七、六〇〇	八七二三

第二表

年度	支出	收入	不足	利益	拂込資本金五拾銭内に對する利益歩合
元年度	二二二、九七七円	七六、三三六円	一四六、六四一円		
二年度	一四、七五五	一六、二六八	—	一、五一三円	四四六四円
三年度	一五三、九一二	一八一、四〇四	—	二七、四九二	繰越
四年度	一六六、一一五	二四七、三九二	—	八一、二七七	一六
五年度	一六九、五五一	三〇〇、二六八	—	一三〇、七一七	二六
六年度	一六九、六六八	四二二、四〇四	—	二五二、八八二	三四

（元年度・二年度・三年度の利益欄に「差引」）

七年度	二〇七、三一二	五三三、六二四	—	三一六、六二三	六三
八年度	二三〇、七五五	六二五、四五二	—	四〇四、六八七	八〇
九年度	二四二、三九〇	七二〇、六九六	—	四七八、三〇六	九五
十年度	二四六、五一〇	八七、二二一	—	五九〇、六二〇	一一九

（備考）支出に於て採取量の會社目論見書に比し減じたる年は其れ丈採取、製造、販賣諸費を減じ增加したる時は其年度の割合を以て加算したり

會社の目論見書にある數字は略す

重役諸氏の考慮によりては第二年度より相當の配當をなし得ることも出來ると思ふ、而も拓殖費を今後全部資

本に繰込まるゝとするも當社の耕園は一英反當り參百圓にも達せぬのであるから從而資產は確固安全なるものたることを斷言し得らるゝのである、同株の前途は有望であらう。

○日本の護謨株

海峽殖民地は新嘉坡に程遠からぬ日清護謨會社、ジョホールの南洋護謨株式會社、馬來半島ネレンバンの馬來護謨公司(社長星野錫氏)などあるも株式として未だ市場に馴染もなければ從つて權威もない譯である、久原礦業は最近更に馬來のスレンバンに五千英反を租借し錫の採

取と護謨と二道にかけ着々歩武を進めつゝあるが之は元よりプランテーションは本業でない副の副位の處である、勢ひ吾人の市場に護謨株を求めんとすれば我南洋護謨拓殖株式會社ある而已と云はねばならぬ、吾人は同社の將來大成功を齎らすことを信ずるものである故に爰に最も大膽に且つ露骨なる批評を加へ將來を豫斷したのである乞ふ非禮を宥せられたし。

○護謨園價格算定法

護謨園の價格算定に就ては幾何の收獲あるべきかを標準とし一丹度に對する直段を建て生產費を控除したる

純益を之れに乗じて得たる利益を基礎として算出せは大體の價格を得る、左表は一英反百三十本として五年生迄等分に植付られたりとし向ふ九ヶ年間の毎年收穫を計上したるものにて之れに護謨相場を假に一弗と見、生産費を控除したる純益を算出すれば。

年齢	一年生	二年生	三年生	四年生	五年生	計	生産費差引利益	利益
一年目	〇	〇	〇	〇	一五〇	一五〇	四〇	[illegible]
二年目	〇	〇	〇	一五〇	二〇〇	三五〇	五〇	一七五
三年目	〇	〇	一五〇	二[illegible]	二七[illegible]	六[illegible]	六〇	[illegible]七二
四年目	〇	一五〇	二〇〇	二七〇	三五〇	九七〇	六五	六[illegible]

五年目	一五〇	二〇〇	二七〇	三五〇	四〇〇	一,三二〇	七〇	九五九
六年目	二〇〇	二七〇	三五〇	四〇〇	四〇〇	一,六二〇	七〇	一,一三四
七年目	二七〇	三五〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	一,八二〇	七〇	一,二七四
八年目	三五〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	一,九五〇	七〇	一,三六五
九年目	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	二,〇〇〇	七〇	一,四〇〇

爰に五百英反の地面があつて一年より五年生迄等分に植付けられたる護謨樹があるものとせば右表の數字卽ち五年目には早くも九萬五千九百圓の利益を收め假りに(一英反四百圓)貳拾萬圓に買收するとしても五割弱に當り九年目以後は七割に相當する利益を擧ぐる計算を

發見するのである、護謨園を開拓し採取事業開始前に賣却して利益を收めて居るものも尠なからざるは是亦利益の點に大なる餘裕を有する事業であるためである。

十四　護謨の需給と市價

在來は何れも新嘉坡日本人栽培協會に於て調査された世界に於ける栽培護謨と野生護謨の産出豫想額である

東亞栽培護謨生産量豫想

地方	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二[illegible]年
馬來半島	八〇,〇〇〇噸	九〇,〇〇〇噸	一〇五,〇〇〇噸	一一五,〇〇〇噸	一二五,[illegible]噸
セイロン	一五,〇〇〇	二七,〇〇〇	二八,五〇〇	三〇,〇〇〇	三[illegible]

スマトラ	一二,〇〇〇	一九,〇〇〇	二九,〇〇〇	三七,〇〇〇	四四,〇〇〇
瓜哇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	二〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三五,〇〇〇
印度其他	五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
合計	一三一,〇〇〇	一六一,〇〇〇	一九七,五〇〇	二三一,〇〇〇	二六一,〇〇〇

世界護謨産出額豫想

區別	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年
栽培護謨	一三一,〇〇〇噸	一六一,〇〇〇噸	一九七,五〇〇噸	二三一,〇〇〇噸	二六一,〇〇〇噸
ブラジル野生ゴム	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
アフリカ其他	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	八,〇〇〇	五,〇〇〇
合計	一七一,〇〇〇	二〇一,〇〇〇	二三二,五〇〇	二五九,〇〇〇	二八六,〇〇〇

世界護謨需要豫想總額

國名	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年
合衆國及加奈陀	一〇五、〇〇〇	一二六、〇〇〇	一三[illegible]、〇〇〇	一四七、〇〇〇	一六[illegible]、〇〇〇
英國	一八、〇〇〇	二[illegible]、〇〇〇	二[illegible]、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
露西亞	一七、〇〇〇	[illegible]	三三、〇〇〇	[illegible]	三五、〇〇〇
佛國	一〇、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一四、〇〇〇	一五、〇〇〇
伊太利及西班牙	七、五〇〇	七、五〇〇	九、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一[illegible]、〇〇〇
和蘭	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇
スカンヂナビヤ	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、一〇〇	二、二〇〇	二、五〇〇
日本	二、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	五、〇〇〇

濠洲	二、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	五、〇〇〇
獨逸及墺太利	ー	ー	ー	ー	ー
合計	一六四、五〇〇	一九三、五〇〇	二〇九、一〇〇	二三六、一〇〇	二六二、〇〇〇

（備考）獨逸、墺太、利バルカン諸邦の交戰國に戰前の需要年々三〇、〇〇〇噸を下らざりし故戰後の需要は勿論上記以上にあるべき事疑ふ餘地なし

以上の諸表によれば戰爭中獨墺側へ護謨の供給全然杜絶せるものならば勢ひ幾分の生産過剩を來たす筈なるも事實は左程にあらずして調節せられつゝあるものゝ様である、此の趨勢を以てせば平和克復し一般の需要を

喚起せんか供給不足を見ることは明かであつて護謨相場も爰に久方振りに昂騰するにあらずやと思はるゝ節なきに不非である、千九百十年に拾志臺に狂騰した護謨相場は爾來逐年漸落の歩調を取つて近年は底値を二志二三片として機會あらば上向かんとし最早此邊よりの下値は生産費との關係もあつて不可能である樣な足取りを示して居る、現に當春は三志六片位迄上進して居つたが其後英領殖民地に於て課税問題の爲め又々底値に接近しつゝあるのは甚だ遺憾とする處であるが、思ふに護謨の需要範圍の多々益々擴大せられつゝあることは

護謨相場の上に假令大なる樂觀を許るされずとするも毫も悲觀の要なかるべく況してや栽培面積には自ら制限ありて今後は之を得るも追々其生產費を向上せしむること免るゝ能はざれば護謨の需給と市價の前途樂觀して可なりと信ずるのである。



種苗床に於ける椰子



二年生の椰子



三年生の椰子



四年生の椰子



實らんさする五年生



結實せる六年生



乾燥せるコプラ

第二　椰子

一　椰子の産地と種類

椰子は南支南洋東西両印度地方より阿弗利加、南米等の熱帯地には到る處産出する、北緯十七度より南緯十二度の範圍に有て華氏の平均温度七十五度より八十五度、雨量一ヶ年五十粍以下ならざる地方は何處でも成長する従てその種類も随分澤山ある、砂糖椰子とて長ひ〳〵房が成り其一端を切ると甘ひ冷たい汁が一房から一升程も出る、土人は麥酒の空瓶などに汲んで路行く人が一文

置いて勝手に呑んで通るに委してゐるなどは瓜哇やセレベスの田舎道では所々に見受けるのである、虎の形した虎尾椰子、孔雀の尾を擴げた様な扇椰子之れは誠に麗はしいので富豪の庭園などに装飾的に植へられて居る、ラッハ椰子、象牙椰子、大王椰子、大實椰子等夫々原名はあるが皆形から命名されて居る、ニッパ椰子(アタップとも稱す)の葉は專ら家根葺きに使はれ、棗椰子は昔から貢入菓子器などになり日本に來て居る、此の椰子は基督がパレスタインの都エルサレムに凱旋した時市民は尊敬と歡迎の誠意を表する爲め此の椰子の葉を道に敷いて迎

へたさうである、日露役の從軍徽章には月桂樹と棗椰子の葉を交叉してある、ブヰテンゾルフの植物園には生長して花が咲き實が成る迄七十五年間を要せし椰子科の樹がある、實は鐵滓を丸めた樣な格好をして居る、檳榔樹も椰子科であるが之れは臺灣にも有る、此の如く種類が多いが吾人の謂はんとする處のものは古々椰子(發音の具合でカカヲ、ココア、にもなる)と稱し果實は即ちコプラであつて直接には土人の食料ともなり其油は非常に需要の多いもので、少しも捨てる部分のない頗る重寶なものである、次に掲ぐるは産地の反別表である。

地方名	面積	地方名	面積
英領印度及錫蘭	一、二八〇、〇〇〇英反	マダガスカル及ザンジバル	一〇〇、〇〇〇英反
中央亞米利加	七〇、〇〇〇	大洋州諸島	二七〇、〇〇〇
比律賓、ニューギニア及海峽殖民地	二六〇、〇〇〇	南亞米利加	五六〇、〇〇〇
瓜哇及スマトラ	三三〇、〇〇〇	西印度	一一〇、〇〇〇
シャム及交趾支那	一六〇、〇〇〇	亞弗利加	一〇〇、〇〇〇
		計	三、二四〇、〇〇〇

之は頗る概算であるが、右の三百廿四萬英反は五千〇六十餘方哩(六、四〇〇英反が一平方哩に當る)となり一英反に約五十本の樹があるとすると總體で千六百二十萬本の椰子の樹が栽培せられて居る勘定である。

二　産額と經濟的地位

今を距る二千年の昔し亞剌比亞人が歐亞の交通を遮斷し永く洋の東西文明を隔離したのも南洋に香料が有る爲めである。西、葡の探險船が到る處相爭ひ遂に羅馬法王から天下二分の大裁定を承はつたのも香料島の爭ひが主である、盜人盜人にものせらる筆法で葡國人を驅逐してマンマと東印度諸島を手中に收めた蘭人三百年前の慾望は矢張り香料である、香料とは何？、胡椒、肉桂（バラン）、肉づく丁字、ヴヾペンヂヤ、ダマル、白檀、ガンビール（仁丹の原料）等を指すのである、今でも此等天產は減じたのではないが

星霜の推移と共に熱帶有用植物の栽培が南洋の富を代表して香料の影を薄くして居るのである、何んと云つても今は護謨と椰子が南洋の二大植物王である、千九百十二年の統計を見ると全世界の椰子及椰子油の産額は七千萬磅(邦貨七億圓)護謨は千九百十六年の採收豫想拾七萬貳千噸であるから一噸參千圓とすると五億壹千六百萬圓、両方共全產額の拾億圓には及ばぬけれども餘程重要なる位置に居るのは明かである、椰子栽培業に經驗ある者は全世界中有利にして確實なると利益の恒久的なるは斯業に勝るものはないと認めて居る、椰子を以て東

洋のコンソルと云はれて居るに不拘日本内地では椰子の實や油が何に用ひられて居ることすら知る人の尠ないのは甚だ遺憾である、何が爲に、コンソル？

一、需要の日々増加し範圍の擴大さるゝ事

二、生産過剩の憂ひなき事

（生産地帶に自然的制限ある事）

三、産物は容易に且つ規則正しく賣れ行き、價格の變動少き事

四、投下資本に對する收入の多き事

將來耕作方法の益々改良し進歩するに從ひ經費

減少し生産能力の増加するに反し産物價格は次第に騰貴すべき見込ある事

三　歐洲の戰亂と植物油需要の前途

歐洲大戰亂の直接結果として租税の増加は各人收入の大減少を來たし又一方に於て各種商品の生産費増加は從て物價の騰貴を招きたるは事實である、此の渦中に有て從來毎年消費量を増加し來た植物油は愈々其需要範圍を擴め數量を激増せしめつゝある、而して動物性油は其價格の點に於て植物性の敵でない、千九百十五年に新嘉坡より歐洲へ輸出したるコプラの量は八萬三千噸に

達して居る、同年にマルセーユのコプラの輸入量は十七萬三千噸で大部分バターに製造せられた、最も植物油として動物油の敵は亞弗利加野生棕櫚實油及大豆油もあるが此等は椰子油よりは下級品である、千九百十五年末の倫敦に於ける右の各油と椰子油の市價は左の如き比較である。

椰子油	壹噸	四十四磅
棕櫚油	同	二十九磅十志
大豆油	同	二十五磅

四 椰子樹の發育と持命

充分に發育した椰子園は實に壯觀である幹は八九十呎も高く直立して頂點から幅六呎長さ二十呎も有る大葉を八方に擴げ堂々天を摩するの概がある、椰子の實は植付後六年目遲くも七年目から結ぶ、初年は十顆から二十顆位であるが追々殖へて五十から七十五、多きは百位の收獲のある樹も尠くない而して一般は二十五年目迄繼續して實の數を增す、其後は生產力減退すれ共尙二十年間は實を結ぶ、四十五年の後は全く老衰して仕舞ふ、土人は椰子の命數は人間と同一であるとして居る、彼等は椰子の木が二十本あれば一生不自由せぬ、土人の食料として

は一ヶ月六十箇あれば足りる、彼等に小供が生れると其子の爲めに椰子を植へる其子は自分の歳は何歳か知らぬが唯椰子と自分と同じ歳である事は知つて居る、此の樣な元始的の生活も吹き送らるゝ文明の空氣に彼等も到底何時迄も醒めずには居られまい。

五　栽培事業

○土　地

土地の撰定は護謨程に六かしくない、木も護謨よりは餘程强い、從つて土地の撰定も簡單なり栽培も樂であるが、さりとて南洋方面何處でもよいと云ふ譯には行かぬ、殊

に椰子の樹には直根が無い爲めに風には頗る弱い、勢ひ暴風地帶は絕對に禁物である、最も理想的の土地は

一、海に近く砂地で沖積層を最良とす

二、排水宜しき樣地面に緩傾斜あること（水の停滯腐敗すること禁物）

三、海風の到る事

四、雨量豐富なる事

自分の見て來た內では比律賓南部地方セレベス、ボルネオ北部海岸等は最も好適地であつた樣である。

○開墾と種苗

椰子も實生である、實は十二齡乃至二十齡迄の發育の盛んな樹から撰んで種苗床に發芽さして爰處で護謨と同じく一年乃至十五ヶ月間培養し雨期の始まり頃に耕地へ移すのであるが種を下ろして發芽迄は三四ヶ月を要する、一方で種苗床で苗を培養して居る間に一方で耕地の開墾を行ふことが最も好都合である、草地と森林とは無論森林を取るが土地の肥へて居る代り開墾には手數がかゝる、森林の伐截、燒却等の作業手續は護謨と少しも變らぬ。

○樹の間隔と施肥

椰子は護謨よりは一層大きくなる爲め距離間隔共に三十呎宛卽ち十米突平方に約一本一英反に約五十本位が適度とせられて居る、二三齡迄は人工肥料を加へ其後は根元に腐蝕土を與へると餘程發育が早い魚肥は試驗の結果最も適する樣であるが費用の點に於て許るされぬ、蓋し結實期には多量の加里及燐を要するからである。

○間作

椰子は護謨と等しく收穫迄六七年の歲月を要する爲めに樹の成育する期間樹間の空地へ綿、大豆、マニオツク、砂糖黍、落花生、玉蜀黍、アナヽス等を栽培し又は家畜飼養等

に利用せらる、經營者の多くは此等の利益を土人に與ふる代りに耕園の手入と椰子樹の保護を爲さしめて居る、誠に兩得の策である、乍然此の間作に一利一害ある殊に左記の數件に注意を要す。

一、收穫期の短かき事

長きものは椰子樹の成長に作ひ根の廣がる爲中止せざるべからず

一、椰子成長に害なき事

パインアップルの如き土地を荒すものは不可なり

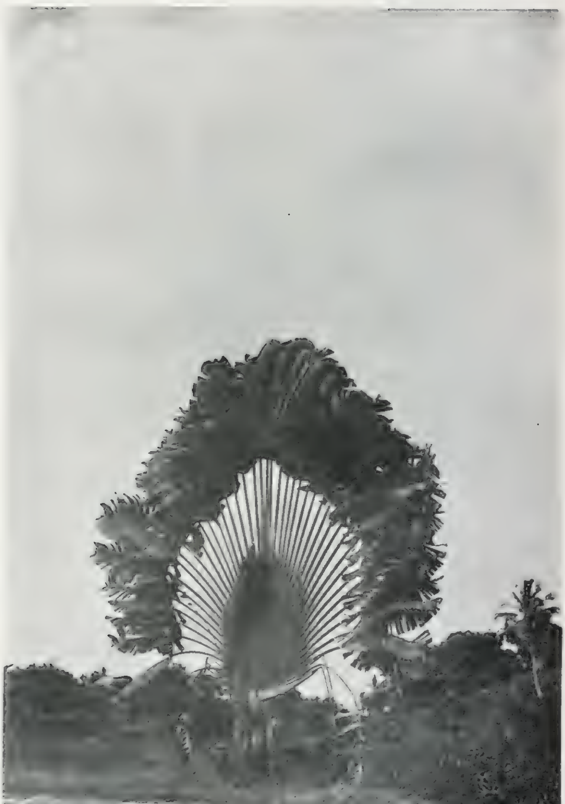
一、間作の爲虫害を生せざる事

隨而椰子の栽培には間作は餘り歡迎せられぬ。

○椰子の病氣と虫害

樹頭及根の腐敗病に罹ることがある、其徴候を認めたるときは傳染の憂ひある爲直ちに之を伐除し燒き棄てること莖より汚なき汁を分泌し葉に班點現はれ凋落を初めたるときも同じく燒却す。

害虫には樹の汁を吸ふもの、葉を喰ふもの、根及莖に穴を穿つもの等がある、第一は白蟻にして害毒多く石油又は石鹼にて洗ふ、第二は多く大なる蝶の類である之を除く



阿里山製材所に於ける記者と扇椰子

には葉に附着せる巢を燒却するにあり、第三は米象である患部を發見したときは燒却するか又は捕獲する爲め切り株を捨て置きて同虫の繁殖したとき燒き殺す、其他源氏虫の如きは大穴を穿つものであるから之は夜間燈火で誘ひ殺す、此の外灌漑、除草等の手入等は無論の事である。

○收穫と取引

六年目遲くも七年目に花咲き實の結び初むると其れからは新陳代謝して年中椰子樹頭茂れる綠葉の根付きには累々として實の結び着いて居らぬことはないのであ

る、其成熟したる分から、土人を使役して採取するのである、椰子の實の賣買取引は一千個を單位として行はれて居る、土人の栽培者からは小商人が買ひ集め取り纏めて市場へ持出さる、南洋に於ける大集散市場は新嘉坡、バタビヤ、マカッサル等である、コプラにしたものは山方で賣買せられるのである。

六、コプラの乾燥

椰子の實を兩手で握つて地上に立てた鐵棒の先きの圓錐形になりた尖端に押し付けて手割りにし上皮を剝くと纖維がある、纖維を又剝くと内側に白い肉がある、之れ

がコプラである其の内には多量の水を持て居るもの故水を除き普通は其の儘太陽熱で乾燥す、土人は一人一日千箇の皮剝き仕事に從ふ、コプラの乾燥不充分であると運送中に品質を惡くし虫が付き黴が生へたりして油を採取するにも上等品を得難い、此の爲めに酸素瓦斯で消毒し又は電氣乾燥を與ふる事なども試みられて居る。太陽熱の乾燥は五日間かゝるが、火力乾燥の裝置をするとは十時間乃至十二時間、熱氣室乾燥は三時間半乃至四時間、廻轉窯二時間乃至三時間と云ふ割合で乾燥法が講じられてゐる、夫々經費其他を顧慮して採用するがよかろ

う。

最上白色コプラは分解器にかけてパルプ狀と爲し百六十度の熱度を以て乾燥し冷却の上直に精撰して尙温き間に荷造りせられ主として佛國に送られバタに製造せらる。

七、椰子バタの好評

精製椰子バタの特質効能を擧ぐると

一、不純物を絕對に含まざる事
一、消化吸收し易き事
一、營養力多き事

一、保存に適する事

一、乾燥せざる事

品質良好で代價が安い爲め消費の逐年激增せることは戰亂と植物油の題下にも記るした通りである、コプラの中にてバタ製造に適せざる遊離酸を含むもの色素不良或は臭氣あるものは石鹼原料油、蠟燭用等の雜用に廻はされる。

八、椰子纖維の利用

コプラを包める椰子纖維は長く彈力性に富み殊に水を彈く力がある、且つ柔かくして細工し易く虫喰の恐れな

きため敷物、綱、其屑は充塡用となつて利用せられて居る。コプラの絞り粕は家畜の飼料、外皮は加里及燐酸性肥料となつて一も捨てる處がない、此の如き椰子の全産額の半は尙土人の直接食料となり、二割は油となり、三割は歐米に輸出され精製されて居るのである、他に酒(アラツク)を造る爲め實を採らずして專ら液汁而已を採收し、又根より魔醉劑を製出するものもあれど之は大なる事業に非ればコ、には省くこと、する。

九、椰子園經營費と利益

壹千英反ニツキ

初年度支出

一、地代　五〇、〇〇〇円
馬來にては拂下料、測量費、初年度の地代、其他にて
は借地權獲得料或は土地買入費等に充當すると
して、

一、開拓諸作業費　二〇、〇〇〇円
椰子園とすべき地には護謨園の如き大森林にし
て多大の開拓費を投ずべきものなかるべし。

一、植付費　二、五〇〇円

一、除草費　五、〇〇〇

一、農具費	一、二五〇円
一、建物費	五、〇〇〇
一、監督費	六、〇〇〇
一、總豫備費	一二、七五〇
計	一〇二、五〇〇

地代、除草、手入、監督費として

第二年度	一五、〇〇〇
第三年度	一五、〇〇〇
第四年度	一〇、〇〇〇
第五年度	一〇、〇〇〇

第六年度	一〇、〇〇〇円
椰子纖維製造設備費	二、五〇〇
コプラ乾燥設備費	一〇、〇〇〇
合計	一七五、〇〇〇

一英反百七拾五圓椰子一本當り栽培費（一英反に約五十本に付）參圓五拾錢となる。

地代と開拓費を節約し得る地方では一本貳圓一英反百圓にて足りる所もある、普通は參圓より參圓五拾錢の範圍で豫算は十二分に見積つてある、稀れに一本四圓につく所もあるからである、ボルネオ、セレベス邊では椰子樹

一本に付何程と定めて地方人に開墾栽培作業を請負はしむる所もある、之等は多く樹齢三年に達した時に受渡を爲すもので資金の前貸等の規定もある、請負者が誠實であれば頗る便法なる方法である。

收穫

栽培地一千英反、一英反當り五十本椰子樹總數五萬株の塲合

一株四十顆を得として二百萬顆となり、大なる實は二百顆でコプラ一擔となるものあれど普通二百五十顆を以て一擔と見れば充分なり卽二百萬顆は八千擔と計上す。

収入

金拾萬圓

コプラ八千擔一擔に付拾貳圓五拾錢卽新嘉坡

弗にて拾弗八拾仙替代

支出

金四千八百圓

コプラ製造費一擔六拾錢當り

差引

金九萬五千貳百圓也

一千英反の經營費總額拾七萬五千圓に對し五割四分五

厘の利廻りに相當す。

初年度は一株當り二十顆翌年は三十顆第三年度(即初めより九年目)に於て四十顆に達するものとせば三年間の收入は

初年度	(七年目)	四萬七千六百圓
翌年度	(八年目)	七萬壹千四百圓
三年度	(九年目)	九萬五千貳百圓

合計金貳拾壹萬四千貳百圓

七、八、九、の三年間に資本を償却して尚四萬圓の剩餘を生じ十年度以降の收穫が五十顆乃至七十顆となるものと

せば更に八割乃至九割の利益は唯だ取りとなるなり。

十、椰子油製造の利益

原料コプラの儘にて輸出するよりも椰子油に精製し販賣する方が更に大なる利益がある、今其比較を一千英反を標準として示せば左の如くになる。

新嘉坡販賣の場合

收入
コプラ代　一〇〇、〇〇〇円
八千擔一擔に付拾貳圓
五拾錢替

收入
椰子油代　一二一、五〇〇円
四千五百擔一擔に付貳
拾七圓替(新嘉坡弗貳

計　一〇〇、〇〇〇

支出

コプラ製造費　四、八〇〇〇円

一擔六拾錢

拾參弗半)

椰子油粕代　一四、〇〇〇

三千五百擔一擔に付四

圓(新嘉坡參弗半替)

計　一三五、五〇〇

支出

製油製粕費　八、四〇〇〇円

一擔開裂費拾錢擂碎費

拾七錢製油費七拾八錢

計壹圓〇五錢

計　四、八〇〇

差引

利益　九五、二〇〇円

容器費　一〇、三五〇

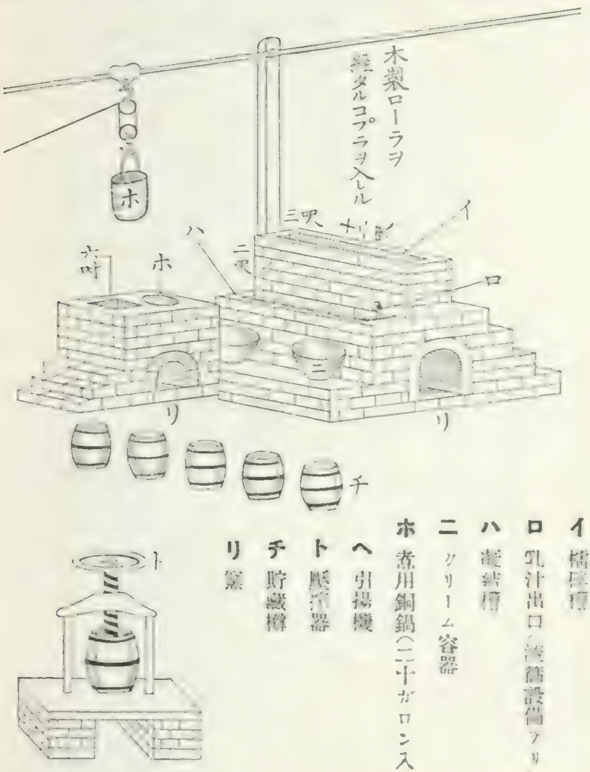
計　一八、七五〇

差引

利益　一一六、七五〇円

コプラの儘販賣すると油として販賣するとは一千英反の收穫、八千擔の椰子に於てその利益に貳萬壹千五百五拾圓の差のあること確實となる、而して右に要する特別資金は製油工場設備費及倉庫に壹萬五千圓を投ずれば足りる、椰子油製造の有利なることと追々世人の知る處となつて新嘉坡、バタビヤ等の集散地に續々製油工場の起

らんとする形勢がある、我が觀光團の參觀せしマカッサルの製油會社の如きは注文に追はれて夜間作業迄



イ 攪拌槽
ロ 乳汁出口(冷藏設備アリ)
ハ 凝結槽
ニ クリーム容器
ホ 煮用銅鍋(二十ガロン入リ)
ヘ 引揚機
ト 壓搾器
チ 貯藏樽
リ 竈

して居つたが、莫大の利益を擧げつゝあることも無論である。

○製油法の一般

一、碎搾機たる木製ローラーを經たる椰子肉を碎搾槽に入るゝ事（一回に六百顆を以て適量とす）
二、五十瓦（ガロン）の清水を加ふる事
三、三人は槽に入りて足にて二十分間椰子肉を踏み碎く
四、槽底の穴を開きてミルク狀液を凝結槽に導く但し渣の流失を防ぐ設備あり

五、二十分經過後クリームは別の容器に抄ひ取らる、其殘りたる水は再び碎摺槽に返却さる

六、三人は碎摺槽にて再び足踏みを初めて前回と同樣の仕事を繰返し斯くすること三回に及ぶ

七、碎摺槽下の竈に火を入れ粕を汲み取り十五封度宛壓搾器にて油粕餠を造る、壓搾に際して油は更に採收せらる

油粕は碎摺槽にて乾燥せらる

此の最後の始末に一人が從事せる間に他の二人はクリームを煮き始む(但し直接火に鍋を曝らさず間接に煮沸



瓜哇の甘蔗耕地



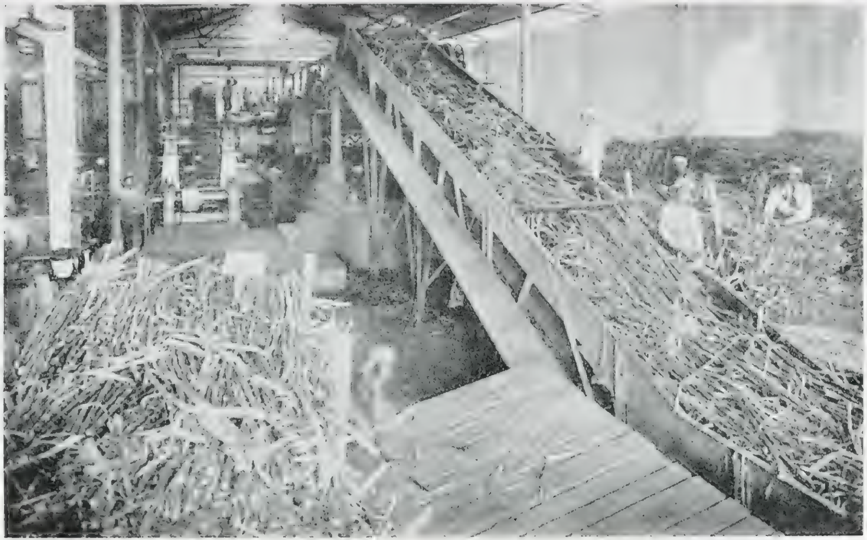
爪哇の生育せる蔗園



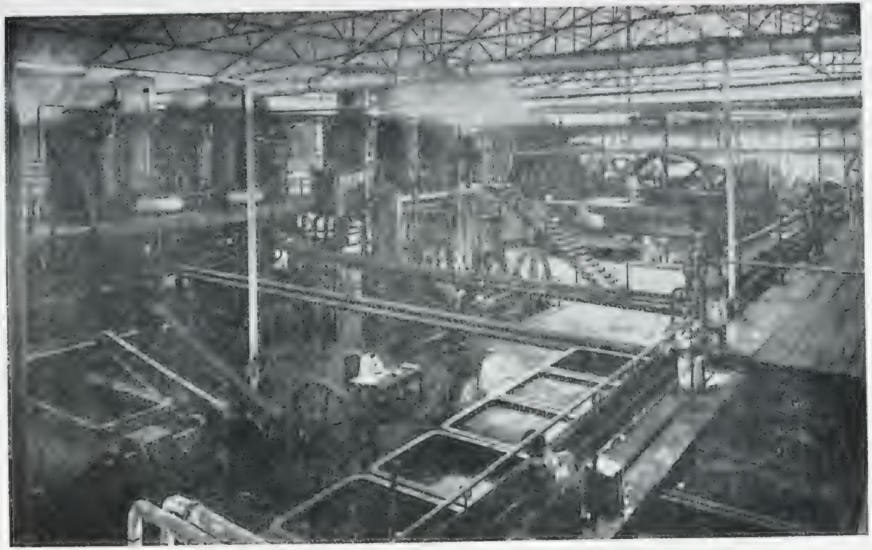
瓜哇製糖工場の一



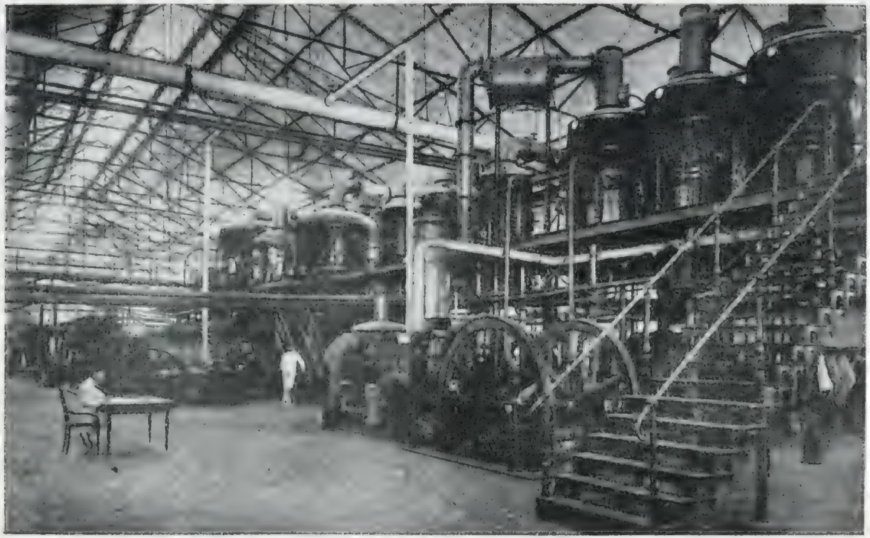
爪哇製糖工場の二



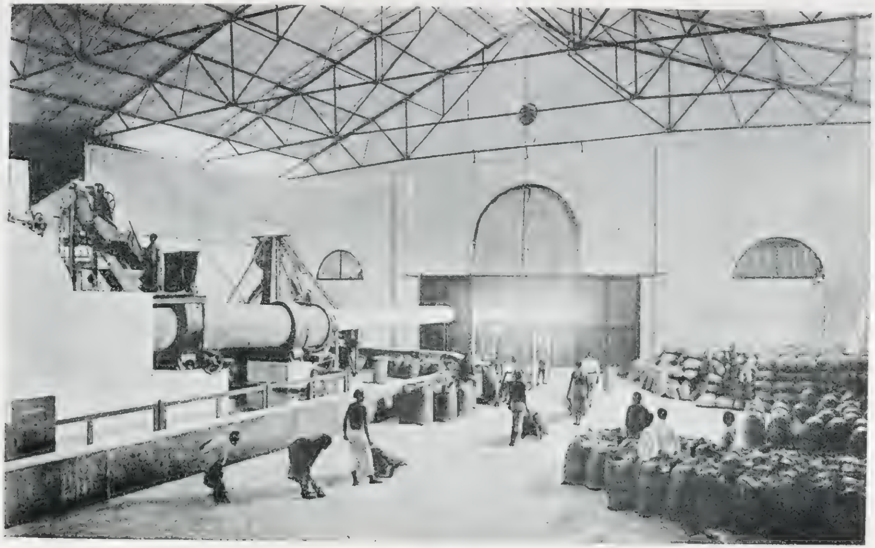
爪哇製糖工場の三



爪哇製糖工場の四



瓜哇製糖工場の五



爪哇製糖工場の六

す同時に火氣強き爲め焦滓を生せしめざる事を注意すべし)次で油の形式を認むるや火を去るべし然る時はクリームは透明の油と變化す、鍋は圖にある如く引き揚げられ回轉せらる斯くて得たる油は抄取され滓は再び煮沸せらるゝ順序である。

一人はクリームを凝結器より抄ひ取り或は窯に火を入れ或は凝結器の殘水を汲み出す仕事を爲し、二人は製油の仕上げに從事す。

此の作業は一日二回約千二百顆を製油するのであるが皆で六人分の手間一人五拾仙の割合で參弗を要するこ

とゝなる、故に二千顆に對しては製造費五弗四拾五仙の計算となり、四十萬顆の製油費は卽ち前條に掲げた八千四百圓の數字となるのである。

上記のコプラ油の製法は最も簡單なる一を參考の爲め示したるに過ぎざるもの故機械力を應用せる大規模の工塲は更に製造費を節約し得べきは無論のことである、唯爰に示したる費用を基礎として製油業を企畫すれば計算の安全なることは疑いないのである。

附 瓜哇の糖業

瓜哇の糖業は其の器械其の工場其の技術一として世界糖業の模範たらざるなしと聞いて居たので非常に興味を以て之を迎へたのであるが實は甚だ失望したのである、最も吾輩の見たのはスラバヤ市より二十哩を隔てた一會社とジョクジャカルタの手前のカラサン驛にある臺灣籍民で砂糖成金の評判の高い郭春袂氏の關係して居る會社を見た而已で、他は瓜哇銀行で聞いた位であるから直に之を以て全般を推すのは誤りかも知らぬが、兎

に角瓜哇には我臺灣の製糖會社に於ける如き大規模の工塲に新式の装置を施して百餘哩の鐵道を敷設し一日に數千噸の製造能力あるエンヂンを運轉して居る如き壯觀は絶對に見られぬのであつた。

○小資本の多數會社

小資本の多數會社によつて瓜哇の糖業は支配されて居るのである之れは永い間に追々に改良され發達し來たものであるのと其の間に大々的に統一せらるべき機會もなく今日に及んだ結果らしい、現今は百八十二の製糖

會社があるが其中六十餘りは銀行が經營する處となつて居る、その前身は東印度會社であつた今の和蘭銀行を始めとして瓜哇の多數の銀行は皆製糖工場及農園の經營生産物の賣買を營んで居るが、和蘭の國法が之を許るして居るのである、それは恰も露國と同樣で、露國の銀行は今回の大戰に際して本業は寧ろ打撃を受け苦痛であるが生産物の賣買を熾んにやつて之には皆不尠利益を占め隨而同國の銀行株は單獨騰貴の景氣にあるなどは日本の銀行家などは思ひも及ばぬことである、瓜哇の銀行兼營の中には進んで製糖工場を買收したのもあるが

其の多くは融通資金の回收難に遭遇し流れ込んだもの丶樣である、然し前記せる自分の見た二會社の如きは優良なる大會社の部で何れも資本金百五拾萬盾で本年は三十パーセント餘りの利益を擧げて居る。

○製品と輸出先

瓜哇の製糖會社の大部分は炭酸瓦斯飽充法と亞硫酸漂白法を用ひ所謂耕地白糖を製出しつゝあるが、輸出先きは主として英國、印度、濠洲で、印度は宗敎上の信仰から骨炭による精製糖を厭ふとの話しである、會社は標本によ

つて商談が調ふと其品を製出する、分蜜で賣れがよくば分蜜糖を作る、卽ち算盤が取れる品ものを注文に應じて作る風である、隨而先約が長期に亘て行はるゝが一昨年からの暴騰には此先約を利用する南洋の華商連中に會社側は餘程乘じられた鹽梅である、隨て砂糖の騰貴では會社よりも糖商側の方が大儲けをして居る、郭春秧氏の如きは六百萬圓は確かに儲けて居るそうで氏の資産は現に壹千萬圓以上と稱されて居る、千八百二十五年以來瓜哇糖の生産額概要と昨年の製造內譯及輸出別表を示せば左の通りである。

生產年表

年號	生產高
一八二五	一、〇一〇
一八三五	二六、五二四
一八四五	八四、六一九
一八五五	一〇三、〇五八
一八六五	一三六、二五八
一八七五	二〇二、一一一
一八八五	三八二、四三七
一八九五	五八一、五六八
一九〇五	一、〇六二、五〇六

年號	生產高
一九〇七	一、二三三、五八一
一九〇八	一、二六二、五八七
一九〇九	一、二六二、一三一
一九一〇	一、二九五、七二六
一九一一	一、四八四、七八三
一九一二	一、四二五、六八九
一九一三	一、五〇一、三二二
一九一四	一、四三三、八八〇
一九一五	一、三〇六、九五二

千九百十五年產糖內譯

最上耕地白糖	五七二、一三七噸
ヘッドシユガー[illegible]高度	四五七、一五四
分蜜糖	一八四、〇七〇
軟糖	五八、三二七
含蜜糖	二二、四九五
其他	一二、七六九

輸出國別

英國	二一七、〇〇〇噸
英領印度	四二六、〇〇〇

新嘉坡	四八、〇〇〇
香港	二六八、〇〇〇
濠洲	六二、〇〇〇
日本其他	二一六、〇〇〇

右の第一表に依て見ると十年前迄の瓜哇糖の産額は非常なる増進を告げ來つたものが最近の十年は頗る鈍つたのである、之れは西部地方には護謨等の栽培漸く熾んならんとし之に反して甘蔗耕地は瓜哇中、東部に集中されつゝあるために不非やと思はるゝのである、古くから山の頂き迄も開かれて居る瓜哇に耕地の餘地如何は問

題でなく寧ろ土壤の研究灌漑、種類の改良等專ら人爲的に增加せられつゝ來つた、產糖額も近年は此等の集約的農事の改良が充分に行き亘り來つた爲めに最早以前の如き增率を有せざるに至つたものかとも思はるゝ、ドウも瓜哇糖業の全盛時代は既にパッスしたものではあるまい？殊に玖馬が前年の二百八十萬噸から一躍三百二十萬噸の大增額を示せる等に見れば一層其の感を深くする譯である、最も本年度は糖價も上位にあり旁々甘蔗糖の產地は何れも植付を增加し且つ氣候も適順に經過して居る樣であるから瓜哇も無論增進を告げることゝ

思ふが大したことはあるまい、尚瓜哇の製糖期は臺灣の反對で五、六月から始まつて九、十月頃迄に終るものが多い、臺灣は十一月頃から翌年の四月に終るのである。

○天惠の保護

瓜哇の糖業試驗所は見て來た專門家の話によると實に立派なものである、其の熱心と研究の周到なること從事して居る學者の揃つて居ることから瓜哇糖業の今日あらしめたるは流石に首肯せしむるとの事である、之は全く幾多の研究と改良が今日の盛況を呈し來つたものに相違あるまいが我か臺灣糖業者に於ても明治の末年か

ら大正の初年にかけ屢々大暴風の襲來を享け實に經營慘憺たるものが有つたが、之れが非常に良藥となつて以來幾多の努力が加へられた、瓜哇には未だ嘗て之の種の災厄に遭遇した事はない單に無風地帶である事丈でも餘程天惠の保護を受けて居る而已ならず土壤が良好なる上雨量が豐富であり勞銀が安い、勞銀の安い結果は耕園の手入となり土を高くし灌漑を完全にして人工的に集約農法が充分に行き屆くのである、之れを我臺灣等に比ぶると勞銀等は別の問題としても幾多の天惠を享けて居るのは爭へぬ事實である、臺灣では一甲步(我二、九四

○坪)から四五萬斤の甘蔗を得るに汲々として居るが瓜哇の收穫平均は、

耕地一バウに就て平均收穫量年表

年度	收穫	年度	收穫	年度	收穫
一八九五	八七擔	一九一〇	一一六擔	一九一三	一一六擔
一九〇〇	九四	一九一一	一二四	一九一四	一〇九
一九〇五	一一三	一九一二	一一五	一九一五	九九

一バウ(約七反)に對して十二萬斤から多きは十五萬斤(一擔一〇〇斤)卽ち將に臺灣の三倍である最も臺灣でも一甲歩から十萬斤以上を收穫し得るものもあるが未だ一

部に過ぎぬ。

○生產費の比較

瓜哇糖一擔當り平均生產費

一、最上白糖	(四円三五)	五盾二五
一、次品	(三、七四)	四、五〇
一、分蜜糖	(三、五三)	四、二五
一、含蜜糖	(三、三二)	四、〇〇

臺灣粗糖生產費

甘蔗一擔	二、円八五
營業費	二五

奬勵費	三五
汽車郵送費	二五
加工費	八五
積沖渡運賃及倉敷	五〇
計	五、〇五

爪哇分蜜糖參圓五拾參錢に比し丁度壹圓五拾錢の上位にある計算である、參圓拾錢の關稅の保護を容易に取り去ることが出來ぬのも之れである、最も爪哇の會社は自分で土地を所有して居るものは勘く、土人から六年間二回作の契約で借り上げて居るか、又は契約耕作で收穫し

た甘蔗を買入れて居るかで、後者は本年の買入は甘蔗百斤貳拾五錢歩留り一一と見て貳拾貳錢五厘、臺灣は貳拾八錢五厘此差六錢即ち一擔に付既に六拾錢の相違を示して居る、運賃や倉敷等は嚴密に調ぶると瓜哇の生産費には追加を要するものがあるかも知れぬ、現に私の見た會社は和蘭標本二十五號の白糖を製造して居るが製産費は六ギルダー即邦貨五圓を要すると謂ふて居た、前掲の表と六拾五錢高い譯である、此割合から見ると粗糖の生産費は我臺灣と比較して實際は壹圓未滿の相違に縮まつて居るかも知れぬ故に臺灣の諸會社が今一段低價

に甘蔗を手に入るゝことが出來たときは世界の市場に瓜哇糖と立派に競爭し得ることになるのである、昨年に引續き本年は一層の大豐作であり、糖價は益々高く之れでは各社の利益は未曾有の巨額に達するであろう、五圓の生産費に五圓の消費税が加はつたものが拾六七圓にも賣れると一俵六七圓の利益がある譯で五十萬俵を生産する會社は參百萬圓以上の利益を擧ぐるのであるが之れには關税の保護があることを忘れてはならぬ、又輸出糖には內地に向くるよりも利益の減少することを思ひ、勝て兜の緒を〆て尚一層の奮發ありたいものである。

○糖價の前途

戰爭中は糖價は高値を維持するであろうと云ふことは瓜哇に於ける糖業者も一致した意見を持つて居つた、專門でない自分には人の話によるより何等の意見を持たぬが世界に於ける甜菜糖の主産地たる歐大陸六ヶ國中の五ヶ國迄は交戰中であること、佛、白、及東部露西亞の菜園が戰爭の爲めに蹂躙せられ居ること、獨墺二國は砂糖輸出を禁止され多額の過剰糖の處分に苦み政府に禁止解除を迫れる等の事實から、一方年々歐大陸より二百萬噸內外の砂糖を輸入せる英國は玖馬、瓜哇等の甘蔗糖の

供給を仰ぎつゝあることが戰爭の開始と共に糖價の大々的昂騰を來せし主なる原因であるなれば平和回復して獨逸の甜菜糖が歐洲市場に溢るゝことになると糖價の反動的下落は蓋し免れ能はざるならんか。

千九百十三年歐大陸の甜菜糖產額

佛國	八〇〇、〇〇〇
獨逸	二、七三八、〇〇〇
墺太利	一、七一〇、〇〇〇
露國	一、七五〇、〇〇〇
白國	二三〇、〇〇〇

和蘭陀　　二三〇、〇〇〇
計　　七、四五八、〇〇〇

比島の糖業

比律賓の砂糖も除々に發達し麻に次ぐ重要輸出品の位置を占め昨年は其の金額貳千貳百六拾萬ペソに達して居る、ネグロス島が主産地であつて隨分古くから甘蔗栽培の行はれて居る割合には製糖業は進歩して居らぬ新式の製糖業に關係して居るのは殆んど米人而已の有樣で中には布哇で成功をした有力なる經驗家もあるので

あるがどうも奮はぬ、近年は糖價も高し利益もあるので大分人氣を立て直ほして來たが二三年前迄は此等の人々も隨分手の燒き詰めであつたらしい、ミンドロ島の製糖會社（能力五百噸）が賣物に出たり某島にある砂糖會社を村もあり町もある島ぐるみ一切で參百萬圓にして置くが買はぬかと云ふ話しも聽いて居たのだが、それが此頃の景氣でドウやら皆賣物は影をかくしたが如何に比島の糖業は苦心慘憺たるものであつたかは畧ぼ洞察せらるのである、土地は幾らでもあり氣候も惡るからぬのであるが勞働者の缺乏に苦められて甘蔗の供給を得る

ことが出來ぬ、其の外の障害もあらうが結局生產費が高くついて算盤が取れぬ、就中勞働者に最も苦められた結果は米國式の耕作器械を利用し瓜哇の集約的農法の樣な手の入つたことゝは反對に所謂大農法式に色々と試みられた、それでも餘程耕地は改善されたと云ふことである、會社が自分で土地を持ち甘蔗自給法を取ることは餘程考へもので出來得べくんば契約耕作による買入が一番よいそうである、乍然之は比島の樣な開墾地に栽培するものには實行困難なるとで會社が自分で土地を持ち自ら開拓し行くことも止むを得ぬのである、乍然かく

して比島の糖業も年一年進歩を見せつゝあるのである。

太田興業會社と其事業

比律賓に太田恭三郎氏の經營する太田興業會社がある、ミンダナオ島ダバオに主力を注ぎマニラ麻、椰子の栽培に從事し店舗はマニラ、ザンボアンガー等に有て日本郵船の代理店生產物の賣買等盛大に營業せられつゝあるが會社より日本領事館へ提出せられたる大正四年度の事業報告の內容は左の通りである。

一、本社の設立



太田興業會社マニラ出張所



太田興業會社麻積出



比島タロモ太田興業會社



太田興業會社整理中の耕地

明治三十七年五月三日在比律賓島ミンダナオ、ダバオ町太田商店の組織を變更し其業務を繼承せり。

一、本社の資本金　（大正五年四月三十日現在）

拂込資本金　　　　　貳拾五萬圓

積立金　　　　　　　拾七萬八千貳百七拾壹圓

一、本社の業務

一　直營農業

一　小作農業を要する土地の賃貸

一　小作農業に必要なる資金の供給

一　灌漑事業

一農產物の賣買

一日用雜貨の販賣

一沿岸航路の代理業

一、マニラ出張所の業務

一農產物の賣買輸出

一海產物の輸出

一日用雜貨輸入

一、ザンボアンガー出張所業務

一椰子樹の栽培

一日用雜貨輸入

一枕木の製作
一海產物取扱
一、土地の經營
社有地の面積千二百五十六町步租借地二千八百五十七町步合計四千百十三町步同椰子植付反別百五十町步にして小作麻植付反別は七百町步なれば尙擴張の餘地潤澤なり。
（サンボアンガ椰子栽培地はメルヒデス拓殖會社に屬するを以て爰に計上せず）
一、勞働者

本社の使雇する勞働者は主として日本人にして之を大別すれば左の如し

小作農夫	日本人	四百五十名
被雇人	日本人	百五十名
	土人	百五十名
	モーロー	八十名

一、水利工事

昨年七月起工せる灌漑工事の現今に至り殆んど完成に近きつゝあり其幹線水路は四哩半にして幅十五尺底幅八尺深四尺乃至十五尺支線水路二十五哩

は天然の谷川を利用す第二支線六十哩は幅三尺深二尺乃至三尺にして優に千五百町歩を灌漑し得べし本工事に要する費用大約拾萬圓にして比島民設水利工事中最も完備せるものと稱せらる

一、未墾土地の利用

未墾地三千餘町歩は其六割を小作に附し殘餘を直營椰子畑となさんとするの計畫なり

一、病院

現今ダバオ附近に於ける日本移民の數は既に千三百餘に達し尚逐年增加の傾向あること以て本社は先

ヶ直接使雇人及小作農夫の疾病患者を收容するの目的を以て本社附近に二十名の入院患者を取扱ひ得べき施設を以て病院を設立し日本醫師を聘し院務を管理せしめ傍ら一般衞生事務を司らしむ尚患者收容所は必要に應じて漸次擴張を計らんとす

右報告候也

ミンダナオ島ダバオ縣タロモ町

大正五年四月三十日　太田興業株式會社

此の太田會社は右にもある如く四千餘町歩の大面積を占有して其のダバオのサンラモン農場にては自力を以

て灌漑の工を起し日本移民六百餘人を入れて熾んに麻の栽培を爲しつゝあるのである、麻は植付後二年を經れば開花期に達し其の頃より收穫期に入て八年間繼續し、其後は更に新らしく植へ付けるのであるが收穫が椰子などより速かなので一層有利とせられて居るが、土壤の關係やら雨量が年中平均するか灌漑が充分であるかせねばならぬ等の事があるので麻はどうも比律賓の特産であるらしい、近年は砂糖やコプラが增加した爲めマニラ麻の產出は其比例に於てこそ退歩して居るが毎年遂增し昨年は四千貳百七拾萬ヘソ全島輸出額の四割を占

の砂糖椰子は何れも貳千萬臺煙草は其の次ぎで四百拾萬ペソ等に比し依然麻は第一位に居る。

麻の計算

一町歩に約千本乃至千二百本を植へ付け其成熟期迄滿二ヶ年間の開墾栽培諸費用

一町歩當り貳百五拾圓

第三年度より收入

一町歩當り麻二十擔

一擔貳拾五圓換　五百圓

支出

耕作費用伐截纖維採取及賣出費用一切

貳百五拾圓

差引

利益一町步當貳百五拾圓

一見非常に有利なることは椰子護謨等も到底遠く及ばぬところである、卽ち開墾費は收穫の初年に於て償却せられ爾後每年一町步貳百五拾圓の利益を擧ぐるので資本の回收の迅速にして利益の大なる凡そ之れに較ぶるものは見出さぬ譯であるか、然し此島に於ける事業の困

難は前にも記るせる如く勞働者の缺乏であつて、折角麻の收穫期に於て纖維分離に從事する麻引工不足の爲め空しく委棄せられ又は灌漑手入等の行き屆かぬ爲め成育不良の耕園等も甚だ尠なからず見出さるのである太田會社は其のサンラモン農場契約移民には一人に二町の土地を與へ第三年度より二町歩に對する收益約千圓の九割は移民に一割は會社に收むることゝして奬勵して居る、爲めに非常に好成績を擧げて居る而已ならず米國官憲等の氣受けも非常によく太田は自己の利益而已を計らず移民を利し地方を利し比島を利するものなり



乾燥麻

とて尊敬を享けつゝある如きは全く太田恭三郎氏の多年の眞摯なる經營振りが今日あらしめたものである、尚且つ戰爭以來麻の騰貴で一層社運は隆昌であると仄聞して居る、多々益々會社の發展を祝福する次第である。

瓜哇公債と馬來公債

蘭領瓜哇の財政は各地方に於ける港灣費等の支辨多額の爲め毎年公債支辨事業數千萬圓を計上して居る、歐洲戰爭以來本國の募債を不便とし初めて瓜哇政府公債なるものが昨年發行せられた、手始めであるのと失敗して

はならぬと云ふ手加減もあつたそうで利率五分賣出九七、五〇として其總額も參千萬盾に止めたが見事に成効して本年の六月には利落か百〇壹盾七拾五仙と昂騰して居た、之れは爪哇か每年壹億圓以上の輸出超過をして居るのと歐洲戰爭以來保險運賃等の關係上金の輸出が非常に不利となりたると蘭人の立場は交戰國の公債?を非常に危險視して何がな有利なる放資物件を望まんとする人氣に傾いて居る關係もありとの事であるが此の機會に不遠更に八千萬盾今度は五分のパーで賣出すことに決定して居ると爪哇銀行の頭取は話して居た、爪

哇銀行は壹億盾の資本で紙幣の發行權を有し公定步合三分五厘を發表せる中央銀行である。

馬來半島では馬來公債六分のパーで千五百萬圓の發行を見た之は馬來聯邦州で英國軍事公債に應募し一分の利子を損失して殖民地で發行せられたものである、其中四百五拾萬圓は支那人の應募になり、其他は一般に分たれたのである、英國政府の軍事公債も殖民地では受けられぬものと見える、(通貨換算の面倒もあるべけれど)二重擔保の形ちで漸く千五百萬圓の應募者を見たなどは隨分憐れなものである、然し之は馬來の如き殖民地とし

ては大成功と云ふのかも知れぬがそれにしても之の大戰爭の戰費からは何の足りにもならぬ、去るにても軍資がよくも續いたものである。

戰後はどうなる

此の戰爭が早晩止むと假定しても又向ふ一年位續くとしても獨逸は到底破産せずには居られぬであらうとの説は近來識者の傳ふる處である、聯合國側は今となつては獨逸から無論償金を拂はしむべき考へであるべきも之れも結局不可能として(有る丈の金貨でも差押へる?)

偖て又獨逸は戰後に於て其の財政を如何に整理すべきかは大疑問である、公債募集は整理上唯一の策であるけれども戰後の募債は容易の業であるまい、外債の如きは戰敗の獨逸には到底望み得らるゝ事でない、內債と雖違り繰と無理算段で彌縫し來つた曉いくら愛國心に訴へても駄目ではなかろうか、左れば勢ひ租稅の一方に誅求の鋒が向つて爲に物價は彌が上に高くなり勞銀は昂騰し生活費は益々高くなつて國民を窮苦の渦中に淪れしめ而も財政整理の端緒をも見出し得ぬと云ふ如き破目に陷ると民論が喧ましくなり遂に爰に國家は支拂能力

か無くなつて破綻するより道がなくなる而して獨逸は其の負債を踏み倒すことの止を得ざることゝなる、寧ろ之れによつて一道の光明を認め得ることゝなり所謂雨降て地堅まり物價は急轉して暴落し勞銀は安くなり生活費は減ぜられて物資はずん／＼海外へ輸出せられ國運は急速に挽回せらるゝと云ふのたが、聯合國側が戰後の經濟同盟を堅くして獨逸品にボイコットせん迄に申合はして居るのは一はかゝる事が豫想せられて居るのかも知れぬ、獨逸が破産すれば墺太利は無論である、而して其時は一大ハニックが世界を襲ふのは當然で之れか

最も大なる影響を蒙るものは米國ならざるべからずと云ふ者もある、最も聯合國側としても限り有る資力を以て無限の戰費に堪へ得るものではあるまい、現に英國の如きも汽船會社に五割の所得稅を課したり隨分誅求をやつて居る、乍然獨逸とは異り對外放資の所得丈でも每年貳拾億圓有ると稱されて居るから戰後の整理に就ても無論其國の信用を失墜する樣なことはあるまいが其の他の國の中には戰爭の始末はどうにか出來ても國民は激增したる國家の負擔によく堪へ得るや如何、戰時公債の利息の負擔にても拾億も貳拾億も歲費が增加すると國

民の生計難の問題が唯事では濟まない、結局軍費の負擔が過重であることが因をなして居るのであるからと云ふ樣な事で獨墺は踏み倒した例もあるけれども之には五分を三分とか半分とかに低減して負擔低減の方法を講じようと云ふ樣な無暴な議論が起りはすまいか、吾人は獨墺の破產も無く歐洲交戰國の公債の信用が永久絶對に維持され斯かる杞憂の消散せんことを切望するのである。

吾人の希望

比律賓は米西戰爭以來西班牙の手から亞米利加人の手に遷つた、利に敏き白人は忽ち頭には經驗と智識と手には資金を以て比島に入り込んだ、彼等の中には西班牙時代の寺領地を買ひ取つた大々地主もある、製糖事業に煙草、麻、椰子等諸種の栽培事業に着手した者もある、政府は毎年四千萬圓の國費を補助して比律賓に文明を注入しつゝある、傑物タフト卿は比島に總督として派せられた彼は赴任中に爰處は永く米國の領有すべき土地でない、早晩ヒリッピノーに獨立自治を許るし米國は寧ろ或種の特權を得て置く方が利益であることを看破した、以來

其の政策が着々現はれ來て今日は比島の米人は無論比律賓人も皆獨立の用意をして居る、處が領有以來十數年着々歩武を進め來つた米人の事業は早晩獨立と共に從來の特權と保護から除外さるゝかも知れぬと云ふ事で浮腰になつた、厭氣のさした米人は誰れでもよい繼承者があらば其の事業を讓り渡したい、政府の方でも之れが丁抹でゞもあつたなら丁度日本は御隣なり戰爭の成金さんでもあり一番御奮發願ひたいとでも切り出す處であるが其處は亞米利加である、かゝる次第故米人の經營せる諸種の事業が今比島に賣り物に出て居るのは決し

て戰爭の影響とか勞働者而已の問題でないのであるから我内地の資本家はよく其の實情を調査し其の確實なるものに向つて猶豫なく放資すべき絶好の機會である、此頃比律賓の內地を普く調査して歸朝された土屋元作君はザンボアンガの向ひのバシラン島なども今全島を手に入れることが出來る地味はボルネオ以上であると話して居られた、君は近々比律賓の實情を盡くした一大著述を公にせらるゝ筈である。

我國農村の疲弊は益々近年其聲を高くする樣である、二年不作の影響で米價が高く共十年平均生活費の昂上

に作ふ收入率は到底悲觀せざるを得ない狀況にある自分は之等の人々を統一する眞面目なる指導者と之れに資本を貸與する特種の銀行若しくは資本家を結合せしめて、ボルネオなり比律賓なり乃至馬來なりに日本村を建設することの國家の爲め最良の方法と信ずるのである、移民と稱する方面も無論惡くはないが、それよりも一町歩何千圓もする田畑と數層倍廣い土地と換へて拔くべからざる勢力を張り大和民族未來の大發展の先驅たらしめたい。

日本は不幸日露戰爭の爲め巨額の外債を負ふたのであ

るが歐洲大戰以來多額の正貨が流入し今一年も戰爭が續くと計算の上から對外貸借は平均するかとも思はるゝのである、處が其平均は政府借、民間貸として平均するのであつて政府の借卽外債は依然存在するのであるから民間には露藏券又は支那借欵などが追々成立するとしても結局兩三年間に多額の外資が流入した形ちであつて其れ丈民間の資金が膨脹したのである、而して之の資金を如何に國家の爲めに有利に使用せしむるかは資本家の責任である、誤ると戰後譯もなく輸入超過となつて正貨が出て行くかも知れぬ實に肝要なる秋である、英

國民の對外放資より享くる所得が英國の誇りである如く日本も此の好機會を逸することなく富國の基礎を開拓せねばならぬ、それには白人は體質が適せぬが有色人種には最も都合もよく其の炎熱も決して驚くに足らぬ南洋が爰にあるのであるから我國資本家及農家の奮起を此の際切望して止まぬのである、而して吾等の資本は今後如何なる土地に投せらるゝも決して傷けらるゝ如きことは無いのである。

護謨と椰子　終

大正五年十一月廿三日印刷
大正五年十二月一日發行

著者兼發行者　大阪市東區備後町二丁目二一
野村德七

印刷人　大阪市北區上福島三丁目
今村乙人

印刷所　大阪市北區上福島三丁目
大阪國文社

Presented by the Author.

Recd 16/1/17

[illegible]

